

# 2019 年度 全国審判長研修会 および マッチオフィシャル・TD研修会



**期日** 2019年4月14日(日)

**会場** 味の素ナショナルトレーニング 大研修室



(公財)日本ハンドボール協会

## 【参加者名簿】

No.	所 属	氏 名
1	青森県 (競技運営部長)	高橋 良周
2	山形県	横山 智
3	福島県	齋藤 仁宏
4	福島県 (副審判長)	村杉 善之
5	茨城県	冨田 拓
6	群馬県	勅使河原誠
7	埼玉県 (審判長)	宮澤 則夫
8	埼玉県 (競技委員長)	伊東 和矢
9	千葉県	大塚 清彦
10	東京都	高島 幸嗣
11	神奈川県	本田 昭太
12	山梨県	益田 耕治
13	長野県	清水 啓佑
14	長野県 (事務局)	服部 博幸
15	新潟県 (事務局長)	井澤 浩二
16	福井県 (審判長)	増田 克洋
17	福井県 (社会人連盟審判長)	佐藤 卓也
18	静岡県	油上 智
19	愛知県 (審判長代理)	大石 剛
20	三重県 (競技部長)	齊木 孝宏
21	三重県 (高体連競技部長)	加藤 拓也
22	三重県 (高体連審判長)	長谷川将規
23	岐阜県	森 裕太
24	岐阜県 (高体連審判長)	山下 祐輝
25	京都府 (審判長代理)	岡野 哲裕

No.	所 属	氏 名
26	京都府 (競技部長)	福岡美千子
27	大阪府 (競技部副部長)	寺内 啓之
28	兵庫県	北山 力也
29	奈良県	福永 賢一
30	鳥取県	竹安 未央
31	島根県	山本 淳
32	岡山県	野島 祥之
33	岡山県 (審査員)	山本 篤洋
34	岡山県 (国際審判員)	太田 智子
35	広島県	高 俊文
36	山口県 (顧問)	白川 裕隆
37	徳島県	藤原 初
38	愛媛県	森實 岳史
39	高知県	長谷部次雄
40	佐賀県	亀川 政文
41	長崎県	原口 佳也
42	熊本県	鶴田祐一郎
43	大分県	宮崎 和彦
44	鹿児島県	奥山 誠恒
45	鹿児島県 (事務局)	海江田貴嗣
46	沖縄県	儀間 稔

### <連盟審判長>

No.	所 属	氏 名
47	全日本社会人	吉田 敏明
48	高体連専門部 (審判長代理)	永春 文義
49	小学生委員会 (競技・審判担当)	山田 祐輔

### <運営スタッフ>

所 属	氏 名
競技本部長 全日本学連審判長	高野 修
競技・審判委員長 九州ブロック審判長	福島 亮一
北海道ブロック審判長	水谷 省一
東北ブロック審判長	多田 和生
関東ブロック審判長	浜田 浩和
北信越ブロック審判長	濱野 大助
東海ブロック審判長	坪井 雅典
近畿ブロック審判長	吉田 正明
中国ブロック審判長	大熨 嘉彦
四国ブロック審判長	武智 誠治
総務委員長	花野 誠一

(敬称略)

# 目次

【資料番号】		【ページ】
プログラム	.....	3
1	各大会におけるマッチオフィシャル(MO)・ テクニカルデレゲート(TD)の任務	4
2	競技運営に関する事項	9
3	公式記録用紙①②	21
4	MO・TD 公式記録補助用紙	23
5	服装や保護を目的とした装具に関する規定	24
6	裁定委員会開催基準	34
7	MO・TD 映像研修資料	37
8	レフェリー指導者ハンドブック	46
9	各級公認審判員の目標	50
10	A 級公認審判員の目標	52
11-1	B 級公認審判員の目標	54
11-2	B 級公認審判員 チェックシート	56
11-3	B 級公認審判員の目標 (プレゼン資料)	57
12-1	C 級公認審判員の目標	60
12-2	C 級公認審判員 チェックシート	62
13-1	D 級公認審判員の目標	63
13-2	D 級公認審判員 チェックシート	65
14-1	A・B 級審査会の評価の要点について	66
14-2	審判員の倫理綱領	67
14-3	レフェリー評価票	68
14-4	レフェリー評価票の記入方法 2019年版	70
14-5	レフェリー評価における着眼点	73
15	グループ討議	74
<b>&lt; 参考資料 &gt;</b>		
1	2019年度 審判員の目標	75
2	2016年 リオデジャネイロオリンピックゲームの総括	76
3	通信機器の活用について (プレゼン資料)	80
MEMO	.....	82

# プログラム

8 : 3 0 ～ 8 : 5 0 受 付

9 : 0 0 ～ 9 : 1 5 開会行事 司会：花野 誠一 総務委員長

\* 挨拶 競技本部長 高野 修  
競技・審判委員長 福島 亮一

\* 日程説明 総務委員長 花野 誠一

9 : 1 5 ～ 1 0 : 4 5

## 研修Ⅰ 『マッチオフィシャル、TDの任務および事例研究』

◆ 「マッチオフィシャル、TDの任務」 講師 高野 修

◆ 「事例研究」 講師 福島 亮一

1 1 : 0 0 ～ 1 2 : 0 0

## 研修Ⅱ 『レフェリー指導のガイドライン』 講師 福島 亮一

1 2 : 0 0 ～ 1 3 : 0 0 ～ 昼食・休憩 ～

1 3 : 0 0 ～ 1 4 : 1 5

## グループ討議および報告会

コーディネーター  
福島 亮一

テーマ：（審判長グループ） 『大会における審判長・副審判長の役割』  
『若手審判員発掘と育成について』

（MO・TDグループ） 『競技役員、補助役員の育成について』

※ 各グループにブロック審判長が入り、コーディネート

※ 討議後、各グループより発表

1 4 : 1 5 ～ 1 4 : 3 0 諸連絡・閉会行事

## 各大会におけるマッチオフィシャル (MO) 並びに テクニカルデレゲート (TD) の任務と 競技運営に関する事項

2019年4月1日 (公財) 日本ハンドボール協会 競技・審判委員会

### 【MO・TDの任務】

MO・TDとは、競技委員長のもと、競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため、レフェリー、全ての競技役員、補助員と協力して、当該の試合を管理する責任者です。各試合のレフェリーが判定した事実判定以外のすべての事項の責任は、MO・TDにあるので、競技規則書、レフェリーハンドブック、大会開催マニュアル及び毎年度発行されている競技運営に関する通達に記されている事項を把握し、その任務にあたらなければなりません。

#### 1. 一般的な事項

##### ① MO・TD

各試合にその試合の責任者として MO・TD を配置します。

MOは当該試合の責任者となるため、全体が把握できる記録席後方に位置します。コートから見て左側から「タイムキーパーを担う TD」、「タイムキーパー」、中央に「公式時計、退場者表示板操作のための開催地補助員」、「スコアキーパー」、「スコアキーパーを担う TD」を配置します。



また、当該の試合に指名された MO・TD は、ストップウォッチ、及び笛、その他試合に必要な物品を持って試合に臨まなければなりません。

#### 2. 試合前

##### ① 競技場の点検

試合開始前に会場、コート、ゴール、ゴールネット、キャッチネット、ボール、交代地域のスペース、ベンチの長さ、ベンチの数、記録席関係備品等の有無、放送設備、医務関係の準備状況を管理し、各種機器の動作具合の点検を管理します。



- ② ジャッジズテーブル  
記録席はジャッジズテーブルと（以下、記録席）と呼びます。
- ③ 諸会議への出席  
大会の MO・TD に指名された役員は、情報収集を含めて各種決定事項の確認やレフェリーとの共通理解を得るために審判会議、代表者会議に出席します。
- ④ オフィシャルミーティングへの立会いと試合前の準備
- 1) メンバーチェック  
各チームから受け取ったメンバー表と選手証、役員証を確認、ベンチ登録選手 16 名、役員 4 名を確認します（※各大会の規定に従うこと）。
  - 2) メンバー表確認の後、次の試合の準備のため記録用紙記入者へメンバー表を渡し、大会プログラムと照合しながら協会指定の公式記録用紙（手書きの場合にはランニング記録用紙でも可）に記入するよう指示します。
  - 3) ユニホームの確認  
レフェリーとともにユニホーム確認を行います。コート上に 4 色あるか、審判員のウェアの色は何色かを確認します。また、両チーム役員に相手側の CP のユニホームと同系色の上着を着用しないように注意を促します。
  - 4) 記録用紙へ正しくメンバーなどが記入されているか確認します。
  - 5) 試合前の記録用紙にチーム責任者の確認サインが記入されているか確認します。
  - 6) ボールの空気圧が適切かどうかチーム責任者、レフェリーとチェックします。
  - 7) ABCD の役員カードを各チームに必要な数配布し、記録用紙に記載の役員にそれぞれのカードを着用させます。
  - 8) タイムアウト申請用紙を配布する。①番と②番。  
※ハーフタイム中、前半に申請がなければ、①番を回収し、②番と③番を配布。  
前半に申請が 1 回あれば、②番と③番を配布。  
前半に申請が 2 回あれば、③番のみを配布。  
※登録された役員以外のトレーナーがいる場合は交代地域外の指定された場所に当該者を着席させ、試合中には交代地域に立ち入らないこと、戦術の指示をしないなど、留意事項を説明しておきます。

MO・TD は試合開始前に上記の事柄など、交代地域規程に違反していないかを管理し、違反があれば正されるまで試合を開始させてはなりません。

- ⑤ 試合前の打ち合わせ  
試合開始前に、レフェリー、記録席補助員との打ち合わせを綿密にしておきます。
- 1) 計測の開始、停止の合図
  - 2) 得点の合図
  - 3) 罰則の合図
  - 4) その他の事項（通信機器を用いた試合終了 10 秒前のカウントダウンの方法など）

### 3. 試合中

- ① スコアキーパーを担う TD はスコアが正しく記入されているか、電光掲示板と整合性が取れているかなど確認しながら、座っている側の交代地域の管理を行います。  
得点の後には、得点したプレーヤーや必ず電光掲示板に加点されたかを、スコアキーパーと声をかけ合い、確認します。得点かどうかはつきりしない場合は、遠慮なくその時点でレフェリーに確認してください。必要であれば、笛を吹き、試合を中断させてレフェリー、MO と確認してください。

- ② タイムキーパーを担う TD は公式計時（得点、時計）の動作が的確に行われているか、退場タイマーの操作が正しく行われているかを確認しながら座っている側の交代地域の管理を行います。また、テーブル全体の業務に気を配り、負傷者カードの作成や必要な場合は退場者カードの作成をします。

試合時間の管理・決定はレフェリーが行いますが、MO・TD の任務としても、不測の事態に備え、別途に手元にストップウォッチと笛を必ず携帯し、試合時間を計測します。



- ③ 前半終了後のハーフタイム開始時や延長戦前の休憩時には MO・TD は正しく時間表示等がなされているかを確認します。また、後半が正確な時間に競技が始められるように管理しておかなくてはなりません。

ハーフタイム終了3分前にチームがまだコート上に来ている場合は、呼びに行きま  
ず。終了1分前には公示時計を止め、後半の試合時間を設定するようにします。

競技時間の設定では、前後半の競技時間はカウントアップ、ハーフタイムはカウントダウンとしてください。試合時間、ハーフタイムはそれぞれの大会規定によります。

- ④ チームタイムアウトの請求はそれぞれ着席している側の TD が受け付けます。机の上に置かれたのち（手で受け取ってもよいです）、立ち上がって、カードを高くかざし、一方の手でタイムアウトを請求したチームを指示し、笛または、ブザーでレフェリーに知らせます。レフェリーがタイムアウトのジェスチャーの後から 50 秒を測り始めます。50 秒経ったら笛、またはブザーでタイムアウト終了をレフェリーに知らせます。その後、チームが速やかに競技を始めるように促します。

チーム役員はグリーンカードを提出する際には、コーチングゾーンを越えてタイミ

- ⑤ 交代地域の管理権限とレフェリーへの通知

交代地域の管理、不正交代等の管理業務は、TD は2名同格、同責任です。試合開始までの準備を的確に行い、試合中は交代地域規程を遵守させ、特にスポーツマンシップに反する行為の管理を行うことも重要です。

試合途中、MO・TD は交代地域において違反があれば、レフェリーに知らせ、レフェリーが罰則を下します。MO・TD 以外の補助役員が違反に気がついたときは、次の中断の時にレフェリーに知らせ、レフェリーが罰則を下します。

MO・TD 自らが プレーヤー、チーム役員に罰則を直接下すことはできないので、交代地域内でのスポーツマンシップに反する行為に対しては、まず当該者のそばに行き注意をします。注意をしたにもかかわらず是正されない時は、レフェリーに合図し、レフェリーから罰則を適用するように促してください。また、必ずしも注意が必要とは限らない状況もあり得るので、留意してください。

- ・荷物はベンチの後ろに置いてあるか。ボールが収納されているか。
- ・登録者以外が交代地域に立ち入っていないか。
- ・2名以上が立ち上がってチームに指示を出していないか。
- ・交代地域での選手・役員の暴言、暴力行為はないか。
- ・コーチングゾーンの管理、タイムアウト申請時以外にむやみにゾーンを離れていないか。
- ・ジャッジに対するクレーム、審判員への暴言はないか。
- ・コートプレーヤーと交代したゴールキーパーがベンチに着席しているか（交代地域に立ったままで待つことは許されない）。

- ⑥ 交代地域でのウォーミングアップ

交代地域の後ろ側でのボールを使わない状態でのウォーミングアップは許されま

す。しかし、アップを中断するようであれば、座るように指示してください。ウォーミングアップ中にコート内に向かって指示を出すようなとき、試合の判定に反応して大きな声もしくはジェスチャーをしたときは、ウォーミングアップを中断したと見なし、直ちに座るよう指示してください。指示に従わない場合はスポーツマンシップに反する行為として、レフェリーを呼び、罰則を適用するように促してください。

⑦ チームタイムアウト請求カードの回収

後半の残り5分を過ぎた時点で、T②カードで後半のチームタイムアウト請求を行っていない場合には、T③のカードを回収します。

⑧ 負傷治療した選手の管理

競技中、特別な場合を除き、負傷によりレフェリーの指示でチーム役員が入場したときは、当該プレーヤーは治療の有無にかかわらず、その後自チームが3回の攻撃を終了するまでコートに戻ることはできません。TDはその記録席テーブル上に、3回の攻撃を示すカードを示し3回を計測します。1回の攻撃についての考え方は、パッシブプレーの際の考え方と同じです。その間、チームタイムアウトが申請された場合でもその攻撃回数は継続されます。

3回の攻撃が終了するまでに、交代して入場した場合は、不正入場となるので、通常の不正入場時の対応をしてください。

⑨ 不正交代

不正交代、不正入場その他交代地域の違反が確認されたとき、即座に笛を吹き、競技を中断させ、レフェリーに知らせてください。不正入場でプレーヤーが余計にコートに入った場合、複数である場合は常に最初に入ったプレーヤーを退場とします。プレーヤーが特定できない場合は、チーム責任者に違反したプレーヤーを指名させてください。チーム責任者が指名を拒否した場合は、MO・TDがコート上にいるプレーヤーから1名を指名します。ただし、7人攻撃のような、交代のゴールキーパーがコート外にいる時にはその交代のゴールキーパーを指名することはできません。

⑩ 競技終了の30秒間の管理

競技規則8:5、8:6、8:10(c)及び(d)の対応について、時間管理とレフェリーへの支援を行う。

また、前半終了間際のプレーに注意を払う。特に、終了直前のシュートが得点となるかならないかの最終判断はレフェリーがするが、MO・TDはレフェリーに適切に助言・勧告をします。

⑪ ベンチ以外からの指示への対応

観客席からの声を本来の位置で聞いていることに対しては制限しなくてよいが、観客席等の場所に移動して指示を受ける行為はやめさせなければなりません。注意したにもかかわらず継続すればスポーツマンシップに反する行為として当該プレーヤーや役員に罰則を与えてください。

⑫ レフェリーへの助言

判定上の問題が生じたとき、適切な助言・勧告を行うことはできるが、事実判定については、レフェリーの最終判断であるため、判定を覆したり、異論をはさんだりしてはいけません。

⑬ 試合続行

試合中止の判断はレフェリーおよびMO・TDにあります。続行のために適切な助言・勧告をレフェリーに行ってください。

⑭ 失格者の管理

TDは失格となったプレーヤーを速やかに交代地域、競技場から退出したかどうか、または失格者席に着席したかどうかを管理します。競技場から退出させるとは、競技に影響のない場所に移動させるということです。失格となったプレーヤー・チーム役



員は直ちにコートや交代地域から立ち去らなければならず、その試合に出場、参加しているチーム関係者といかなる接触もしてはなりません。失格となったプレイヤーがコート内に入った場合などさらなる違反が認められた時は、コート上のプレイヤーを減らすことはせず、報告書を作成します。

⑮ 退場者の管理

電光表示や紙媒体で2分間や入場時間、退場プレイヤーの番号が表示されているかなど退場時間を管理します。また、退場となったプレイヤーを、ベンチに座らせるよう管理します。

退場時間が経過し、入場する際の判断は、チーム、プレイヤーの責任によるので記録席から入場許可の合図をすることはなく、また、入場許可を求められても回答する必要はありません。

⑯ タイムアウト

必要があれば、笛の合図にあわせて、タイムキーパーが計時装置の時間を止めます。この笛の合図はMO・TDだけでなく、記録席補助員も行うことができます。時計を止めた状況及び再開方法について、レフェリーに助言します。

⑰ 通信機器

レフェリー、MO・TD、競技役員は通信機器を使用することができます。通信の内容は競技運営上の情報です。TDからは事実判定に関する指摘をしてはなりません。ただし、MO・TDはレフェリーの死角で起こった失格相当の重大な違反行為に対しては助言することができます。

⑱ トラブル対応

試合中、コート内外を問わず各種トラブルが起きた場合、MO・TDはレフェリーと協力してトラブルを早期に解決しなければなりません。この行動、対処は速やかに、しかも迅速に行わなければなりません。また、特異な状況で試合が中断した場合、MO・TDが観客に対して理由を説明することが望ましい。処理・対応に時間がかかるときは、その旨を会場アナウンサーから説明するように促します。

4. 試合後

- ① 公式記録用紙の照合、全後半の得点、罰則の記録などの確認を行い、間違い、記入漏れがなければ署名する（タイムキーパー、スコアラーにもフルネームで署名させる）。
- ② タイムアウト申請カードの回収
- ③ ABCDの役員カードの回収
- ④ 記録用紙を本部へ
- ⑤ 複写式の記録用紙は各チームに1枚ずつ渡す。

5. 最後に

マッチバイザー制度の発足とともに、MO・TD制度においても、当該の試合を二人のレフェリーとともに任されたのがMO・TDであり、その試合を円滑に運営し、成立させる責務を負っています。レフェリー、タイムキーパー、スコアラーまた、チーム役員、選手と協力しあい、素晴らしいゲームが展開できるようお願いいたします。

(公財) 日本ハンドボール協会 競技・審判委員会

### 【競技運営に関する事項】

この競技運営に関する事項はマッチオフィシヤル（MO）・テクニカルデレゲート（TD）の任務を遂行するための、競技運営に関連事項を記載してします。日本ハンドボール協会（以下、本協会）主催、共催大会、加盟団体の主催の全日本大会においては実施、ブロック大会、都道府県大会においては推奨するものとして、各大会において基準として採用し、適切な競技運営を行ってください。

#### 競技運営について

各大会、各試合は、2019 年度本協会競技規則及び最新の競技規則によって行う。

#### 1. 会場設営と確認

##### ① コート

競技会場は、正規コート（40m×20m）を使用する。競技規則に定められた通りとするが、教育機関の大会など正規のコートの長さが確保できない場合、その大会の規則に従う。小学生など、年齢や競技場確保の面で正規の大きさを確保できない場合には、その状況に応じて実施する。

##### ② 安全地帯

コート設置の場合、アウターゴールラインから 2m、サイドラインからは 1m の安全地帯を確保しなければならない。止むを得なく確保できない場合には、緩衝材（マット）などを配置し、安全確保に努めなければならない。

記録席前面はサイドラインから 50cm 以上 離し、ベンチは 1m 以上 離してセッティングする。50cm および 1m はスペースに限りがある場合の最低条件です。それより広いスペースが確保できる場合は最大 2m まで広げることができる。

##### ③ ゴール

ゴールは床に固定しておかなければならない。止むを得ず固定できない場合には、固定用重り、マットや砂袋、両面テープなどでゴールが倒れないような処置を必ず施すこと。

##### ④ ゴールネットとキャッチネット

ゴールネットは内張とし、サイドネット、ネット下部からシュートしたボールが抜け出ないように紐で固定する。跳ね返り防止のためにキャッチネットも張る。キャッチネット上部が垂れ下がること、途中で紐が切れること、下部も床につきたるみが見つからないように調整するなど機能を保たれるよう注意すること。



##### ⑤ ベンチ

ベンチは単独イスの場合には 16 脚を（可能な限り結束バンドなどで固定して）設置する。

##### ⑥ コーチングゾーン

交代地域にコーチングゾーンを設定する。サイドラインから 50cm 離してサイドラインに対して垂直に 50cm の長さで 2 本引く（サイドラインと異なる色でも構わない）。1 本はセンターラインから 3.5m の位置に、もう 1 本はセンターラインから 12m のところに引く。その間をコーチングゾーンという。

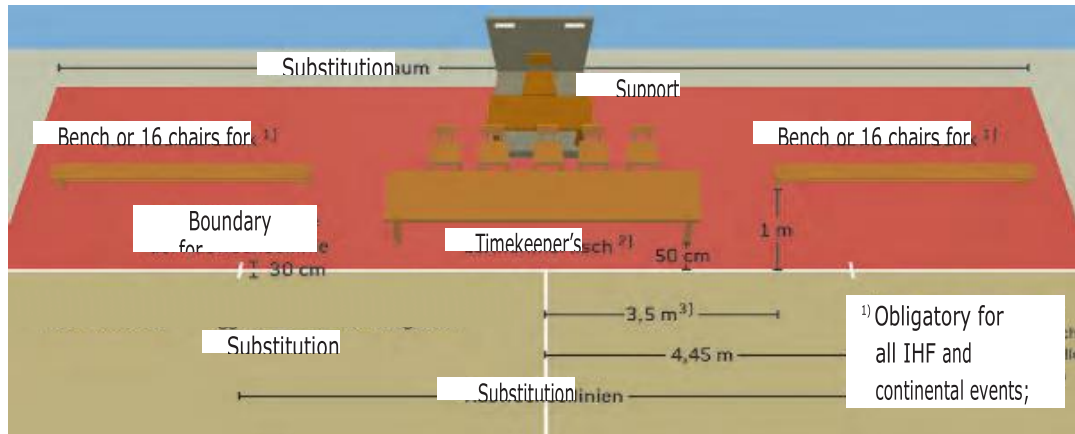
⑦ 記録席（ジャッジズテーブル）

記録席には補助員の業務を簡素化することから最大 4 名が座れるスペースを確保する。記録席後方に MO 席を 設け、その横に競技役員席を設ける。

⑧ 大会役員席

主要な国際大会では、記録席後方は大会競技役員席（サポートテーブル）となる。コートから見て右側に国際連盟競技役員が座り、左側にテクニカル役員、主管国協会競技役員が座る。

本協会の大会でも壇の設置は別にして、記録席後方に競技役員席を設置する。その他、会場の規模、規格などに応じて対応する。



2. 競技実施関係（準備物や諸会議）

① 競技時間

競技時間は競技規則に従う。大会で定めたものであればそれに従う。競技時間の計測は、加算式の電光表示板を使用する。電光表示板がない場合は、記録席の上から見える卓上時計を用意する。卓上時計がない場合は、ストップウォッチを用いる。電光表示板が機能しなくなったときは、可能な限り、用紙等による時間揭示をし、チーム関係者、観客に競技時間の経過が分かるよう配慮する。

② ハーフタイム

ハーフタイムは 15 分以内とするが、各大会で時間を定める。電光揭示板を使用しているハーフタイムの計測は減算式を推奨する。ハーフタイムのコートの使用は、国内では原則として次の試合のチームの練習に使用できるものとする。

③ 得点・時間表示

電光揭示板によるチーム名表示は、スコアシートに記載の左側を A、右側を B とし、A チームを得点表示でも左側に表示、右側には B チームを記載する。これはトーナメント表では左側のチーム、リーグ戦の対戦表でも左側に記載のチームが A となる。したがって、スコア表の A B が前半後半で変わらないので、得点揭示板などの表記も左右の表示を変える必要がない。

※ 4 面表示をおこなったりすると、観客にもより見やすい環境となるので、対応して欲しい。

※ 対角でなく、中央に設置せざるを得ない場合は、混乱を招かないよう、チーム表記を明確に示す事。

④ 松脂の使用

特に禁止されていない場合、指・手のひらに松ヤニを付けて競技してよい。ただし、松ヤニが許可されている大会でも、チームの責任において、コートから離れたとき、会場内の廊下、更衣室を含め、その他の施設に松ヤニがつかないように対応する。

また、大会や会場の使用条件によっては、松ヤニそのものの使用を禁止することや、靴に松ヤニをつけることを禁止することができるものとする。

⑤ 医務

コート脇に担架を用意する。合わせて車いすを併せて用意し、状況に応じて対応する。また、迅速に対応できるように、場所、担当者を決めておき、使い方も周知しておくこと。

⑥ 選手登録

プレーヤー、チーム役員の登録方法、期限、変更方法については各大会で定める。申込期日を過ぎたプレーヤーの登録は認められないことやチーム役員の登録は随時できることなど、各大会の要項に定めたとおりで実施すること。

また、大会によって、プレーヤー変更は代表者会議開始前までに届け出ることなど決まりがあるが、届出書には理由の記載や、証明書の提出を問うべきではない。ただし、国体は日本体育協会の規定通り従来通りとし、国体要項に従う。

⑦ ユニホーム

- 1) 大会で使用するユニホームは、2種類以上用意することとする。1種類は明るい色（淡色）の上下セット、もう1種類は濃い色（濃色）の上下セットとし、また、同系色でないこと。本協会競技本部として、白一色のユニホームを用意することを推奨する。ゴールキーパー（以下 GK という）の色は上記2種類以外の色を用意する。以上、CP・GKと4色のユニホームをそろえることとなる。
- 2) 同じチームのゴールキーパーのシャツの色は、同色でなければならない。ビブス（ベスト）を着用する場合は、登録された（同色）でなければならない。その場合、登録された同じ番号でなければならない。登録されたゴールキーパーと同色の、穴あきのユニホーム（ビブス）を着用することは許される。ユニホームの色が同じであれば、形にはこだわらないということである。
- 3) 番号はユニホームにきちんとつけておかななければならない。また番号が明確読み取れるように配色、数字の大きさ、太さも配慮する。背番号がとれそうな状態でのプレーは禁止する。ピンやテーピングで止めることは許されない。正されるまで競技に出場できない。確認、出場の許可はMO・TDが行う。
- 4) ユニホームの広告に関しては、掲載、経費は現状、各団体で定める。国体では広告をつけたユニホームを着用することは許されていない。また国体規定に定めたものに限る。
- 5) 代表者会議でユニホームの確認、承認をおこなうことがある。また、当該の試合で着用するユニホームはゲーム前のオフィシャルミーティングでレフェリー・TD立会いの下で決定される。第1試合は試合開始30分前、第2試合以降は、前の試合の前半終了直後に記録席前で行う。その試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。調整がつかない場合は、IHFルールと同様に、チーム番号の大きいチームが変更する。
- 6) チームはユニホームとして、シャツ・パンツ、そしてソックスの色を統一すること。なお、ソックスは色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問わない。また、ユニホームの規格は以下に示した通りとする。
- 7) 試合中、ユニホームが破損し、競技を続行できないと判断されるときは、別のユニホームに着替えなければならない。その場合、番号は異なってもかまわない。交代地域にいるその他のプレーヤーのユニホームと交換することも許される。



⑧ 代表者会議

各チームは、各大会で指名された代表者（監督や主将）は代表者会議に出席しなければならない。会議において、大会実施の諸条項の確認などを行い、大会の円滑な運営に役員、チームとも協力しなければならない。また、その大会で着用するすべての種類のユニホームを持参し、代表者会議で確認することが望ましいが、原則は各試合のオフィシャルミーティングでレフェリー、MO・TD が立会いの下に確認する。

⑨ ゲームエントリー

代表者会議で決定したチーム役員、プレーヤーのみが競技に参加、出場することができる。各試合の出場プレーヤー、参加チーム役員数は競技規則に定められた通りとするが、加盟団体が別に定めたときは、その規則に従う。

⑩ オフィシャルミーティング

トスは、試合開始前、記録席前で行う。国内での第1試合のトスは、概ね試合開始 30 分前とし、第2試合以降は、前の試合の前半終了直後に行う。トスには、チームを代表するプレーヤー、もしくはチーム役員が立ち会う。トスは競技開始前にレフェリーが行うが、MO・TD は立会い、問題が生じたときには MO・TD が助言・勧告する。

⑪ メンバー表の提出

チームはメンバー表を毎試合ごとに提出しなければならない。大会本部が用意して 配布し、毎試合提出することも可能である。スコアラー補助員は提出されたメンバー表をもとに、公式記録用紙に転記する。MO・TD は公式記録用紙にプレーヤー、チーム役員、その他の記入事項が正しく記入されたかを管理する。

⑫ 背番号

背番号は、国体以外は 1 から 99 までとする。国体での背番号は、1 から 12 とする。

⑬ ボール

空気圧の数値は各試合の前に、MO・TD、レフェリー、チーム役員の協議によって決定する。適正なボールの機能が発揮できる空気圧とする。

⑭ 選手証

メンバー表とともに登録証は、各試合前に各チーム代表者がレフェリー、MO・TD に提出する。第1試合の提出は、試合開始 30 分前（IHF ルールでは 1 時間前）のトスの時とし、第2試合以降は、前の試合の前半終了直後に提出する。

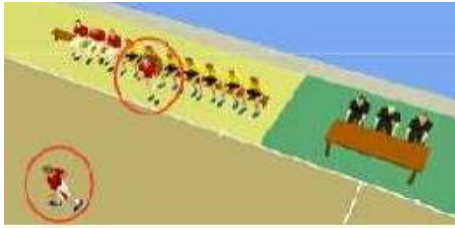
プレーヤー・チーム役員は、各試合に登録証を提出しなければ、試合に参加、出場することはできない。

試合終了後、レフェリーもしくは MO・TD は、両チーム代表者に登録証を返却する。裁定委員会に提訴されるプレーヤー、チーム役員がいる場合は、当該者の登録証はその場で返却せず、裁定委員会終了後、裁定委員会の処置に従い返却する。また、ドーピングコントロール検査対象者に選出されたときは、ドーピングコントロール班の係員に渡す。検査終了後に返却される。

⑮ チーム役員の服装

交代地域にいるチーム役員は、スポーツウェアか平服をきちんと着用していなければならない。また、相手チームのコートプレーヤーと、はっきり区別できる服でなければならない。

試合開始前のトスの段階で相手チームのコートプレーヤーのユニホームの色を確認し、重複しないよう配慮すること。止むを得ずプレーヤーのユニホームの色と同じ場合、レフェリー、MO・TD は、チーム役員に色の異なる上着の着用を指示する。正さなければ交代地域に留まることは許されない。



⑯ 身に付けられるもの（保護を目的とした装具）

サイクリングパンツ、アームスリーブ、アンダーシャツ、コンプレッションソックスなど従前に定められていた「身に付けられるもの」については、別紙の「2019 JHA 保護を目的とした装具」記載している取り扱いとする。また、大会ごとに、遵守しなければならない事柄、注意事項として事前に参加チームに通知しておくことが望ましい。

⑰ 役員カード

試合に参加するチーム役員に、A から D の首から吊すカードを渡す。試合中、チーム役員に常に着用させておかなければならない。ハーフタイム中もつけておかなければならない。

カード A をチーム責任者とする。カード A をつけているチーム役員がいなければ、責任者として認められている行動はできない。国体は監督がカード A をつける。IHF 規則では、プレーヤーとチーム役員の兼任は認められていないが、国内では兼任を認める。兼任プレーヤーが交代地域にいる時間が長いときは、ABCD カードを首からぶら下げていなければならない。試合に出場する場合はカードを交代地域においておかなければならない。

⑱ 記録用紙

IHF が制定した公式記録用紙に準じ、平成 28 年度から改正した公式記録用紙を使用する。ただし、国内の競技会において、手書きの場合には、従来のランニングスコアを公式記録用紙として使用することができる。公式記録用紙はジャッジズテーブルで記載し、電算システムや記録補助としてのランニングスコアは記録席後方の競技役員席で記録する。協会ホームページに掲載している PC を利用した公式記録用紙・ランニングスコアシステムをダウンロードして利用することを推奨する。

⑲ TD の配置

全日本大会の MO・TD は大会ごとに指名してプログラムに掲載していること。また、全国大会だけでなく、ブロック大会、都道府県大会、地区大会でも MO・TD を配置して実施することが望ましい。

競技会の種別に限らず、MO は競技規則、競技運営に精通し、責任を持って試合管理に当たることができる者、TD は記録席の補佐、交代地域の管理などを行うことができ、補助員とともに試合の運営にあたる能力があるものとする。

⑳ オフィシャルの服装など

MO・TD の服装は、できるだけ MO・TD として統一した服装とする。ブレザーにネクタイ着用もしくはスポーツウェアを着用する。

3. 試合前（セレモニーや確認）

① 記録用紙の確認

試合開始 10 分前に、各チームの責任者が公式記録用紙に転記されたプレーヤー、チーム役員の記入が正しいものであるかを確認し、確認の署名をする。チーム役員が、A から D の区分で記入されているかを確認する。最終的に、誤記載、記入漏れの責任は、確認を怠ったチーム責任者にある。

試合開始前に負傷したプレーヤーが出た場合、試合開始10分前までは交代することができる。ただし、大会にエントリーしているプレーヤーでなければ、交代はできない。

② アナウンス

延長戦を実施したこと等により定刻の試合開始時間に開始できないときは、試合開始ま

での時間は各大会によって決める。試合開始予定時間を各チーム、観客に知らせる。

③ 選手紹介

選手紹介では、プレーヤー、チーム役員のみならず、レフェリー、MO・TD など関係者は全員紹介すること。

④ セレモニー

試合前の入場は原則レフェリーの先導で行う。センターラインに平行に並ぶ場合もレフェリーが先導する。原則として挨拶は、コート中央にサイドラインと平行に横一列に並び、観客、ベンチに対して礼をして始める。プレーヤーの紹介を行う場合にはベンチから、あるいはコート外から入場する方式を取り入れるなど、各大会で工夫して行う。

また、試合開始の挨拶時、MO・TD を含めて記録席補助員、モップ係も起立し、挨拶をする。



⑤ 登録者の確認

各チームは、その大会に出場するプレーヤー、参加するチーム役員の登録証を持参し、試合ごとに MO・TD が確認する。

レフェリーと MO・TD は、試合開始前までに、登録証によってチーム役員とプレーヤーの照合を行う。場内放送でプレーヤー紹介がある時は、その際に MO・TD が照合する。

4. 試合中

(記録、得点、交代地域、タイムアウト、段階罰、負傷退場、延長戦、7MTCなど)

① 記録・得点

試合途中のレフェリーの各種の合図に対しては、記録席補助員が対応する。レフェリーが得点の合図をした時、手を高く上げ、確認の合図をする。レフェリーがプレーヤーに警告を与えるためにそのプレーヤーを指し示した時に、番号を特定できた場合には、記録補助員はイエローカードを高く上げて合図する。番号がわからなければ、イエローカードは上げない。退場、失格も前述の要領で対応する。退場の場合、再開の合図の際、タイムキーパーは退場を意味する 2 本指を用いて合図する。以上の点は、試合開始前に、レフェリーと打ち合わせをしておく。これらの業務は記録席補助員（記録員）の業務である。TD は行わず、指示、支援する。



② 公式記録用紙の取り扱い

公式記録用紙（ランニングスコア公式記録用紙も含む）は主催者用として大会本部に提出する。2 枚目は日本協会提出用として大会本部に提出する。3 枚目、4 枚目は各チームに 1 部ずつ配布する。記録用紙が速やかにチームに配布できるよう、大会本部に提出でき

るよう管理する。各チームには公式記録用紙とランニングスコアと 2種類渡す。  
すべての事項が記入され、MO・TD が最終確認をした後、MO・TD が署名する。

③ 交代地域（規程と管理）

チーム役員もプレーヤーも次のことは許されない。

- ・ レフェリーや MO、TD、タイムキーパー、スコアラー、プレーヤー、チーム役員、観衆を挑発、抗議、その他のスポーツマンシップに反する方法（言葉、表情、身振り手振り）で妨害または侮辱すること。  
スポーツマンシップに反する行為には、判定に対する不満を表すジェスチャーをしたり、大声を出す、相手チームのみならず自チームのプレーヤーに悪態雑言を浴びせる、観客に対して不満の表現をしたり、大会・競技役員を含めて観客に不当な表現を用いたりすることを含む。
- ・ 競技に影響を与えるために、交代地域を離れること  
プレーヤーやチーム役員は、原則として自チームの交代地域に留まるものとする。しかし、チーム役員が交代地域を離れ別の場所へ移動したときは、チームを指揮し管理する権限を失う。その権限を再び得るためには、交代地域に戻らなければならない。
- ・ 交代・入場を意図しないコート内への立ち入りは不正入場ではない。たとえば、プレーヤーが水分補給やタオル使用のために交代エリアラインを通らず交代地域に戻ったとしても、罰則の適用はない。ただし、水分補給できるのは、自分のチームの交代地域だけである。相手チームの松やにを使用したり、水分補給をするためにコート外にでることは、コートの不正使用となり違反行為である。加えて退場の判定の際、交代エリアラインを通らず、潔く交代地域に戻った場合は罰則を付加しない。
- ・ チーム役員は原則として座っていなければならない。ただし、原則としてチーム役員 1 名のみが戦術的な指示を出すことや、治療を目的としてコーチングゾーンの範囲内で動くことが許される。
- ・ 試合中、許可した者を除き、いかなる者でも交代地域に出入りさせてはならない。
- ・ 試合中、交代地域にスペースがあれば、その地域内での短時間のウォーミングアップは許される。しかし、交代地域内でボールを持つこと、触ることも許されない。また、ウォーミングアップを中断するようであれば、ベンチに座らなければならない。ウォーミングアップ中にコート内に向かって指示を出したり、試合の判定に反応して大きな声もしくはジェスチャーをすることは許されない。ウォーミングアップを中断したと見なされ、その後ウォーミングアップを再開したとしても直ちに座るよう TD から指示される。指示に従わない場合はスポーツマンシップに反する行為として、罰則が適用される。
- ・ コートプレーヤーと交代したゴールキーパーはベンチに着席していなければならない（交代後、交代地域に立ったままで待つことは許されない）。



④ 交代地域で使用できるもの

交代地域では、チーム役員、プレーヤーのあらゆる通信機器の使用を禁止する。iPad のような記録分析用の使用も現時点での使用を禁止する。

交代地域では、メガホンの使用を禁止する。また、全国大会、ブロック大会を除き、都道府県大会、地区大会のように、チームにスタッフが少ない場合、競技に影響ない範囲



で、交代地域でビデオ、写真撮影を許可してよい。

⑤ チーム役員

試合開始後遅れてきたプレーヤー、チーム役員は、MO・TD が承認することにより、試合に出場、参加できる。承認されるためには、出場、参加資格があり、事前に提出されたメンバー表に記入された者でなければならない。

記録用紙に記載されていないプレーヤーや、参加資格のないプレーヤーが競技に出場した場合、当該プレーヤー及びチーム責任者に、レフェリーが罰則を適用する。

プレーヤーとチーム役員が兼任の場合、罰則は個人に適用するものとする。コート上での罰則はプレーヤーに、交代地域でカードを着用しているときはチーム役員に記録する。ただし、プレーヤーで適用され、あるいはチーム役員で適用された場合であっても、個人として警告を 2 回適用することはできないことから、繰り返しの違反は 2 分間の退場となる。

⑥ 異議申し立て

試合中、事実判定を除いた異議申し立てがある場合には、役員カード A を付けたチーム役員が MO・TD に問い合わせ、MO・TD は真摯に対応し適切に判断する。必要があれば競技委員長、大会委員長と協議し、適切な競技運営を遂行する。

試合終了後、チーム責任者を通じて行われる事実判定以外の口頭による異議申し立ての時間を試合終了後 1 時間以内とし、2 時間以内に納付金 5 万円を添えて文書で提訴する。正式な手続きを経て裁定委員会を開催し、協議する。

⑦ 明らかな得点、得点の取り消し、退場者の得点

たとえば速攻のような場合、両レフェリーが、違反の事実を見ることができないような状況になった場合、MO・TD は得点後に、レフェリーに失格相当の違反の事実を知らせ、罰則を適用するよう指示する。

得点に関わることについて、その場で異論が出るような場合、慎重に対応するべきである。次のスローオフが吹かれた場合、得点は取り消すことができないことから、レフェリーは短時間で適切かつ公正な判断を下すべきである。MO・TD は決定のために支援しなければならない。最終的には、事実判定であることからレフェリーが結論を出し、レフェリーが責任を負うこととなる。

試合中に退場しなければならないプレーヤーが何らかの理由によって退場せずに試合に出場し続けたことが判明した場合、その時点から退場を適用する。出場したことに対する責任はレフェリー、MO・TD にあり、プレーヤーにそれ以上の罰則の適用はしない。事実が判明する間にそのプレーヤーが得点をあげた場合は、その間のすべての記録を認める。退場が判定され、出場し続け得点をしたが、次のスローオフまでに事実が判明した場合、得点を認めずその時点から当該プレーヤーを退場とする。

⑧ チームタイムアウト

グリーンカードは 3 枚準備する。それぞれのカードには ①、②、③ と番号をつけ、明確にしておく。前後半に最高 2 回までしか請求できないことから、前半には ① と ② の番号がついてあるカードを配布する。前半 1 回も使用していないチームからは、① のカードを回収する。また前半に 2 回使用したチームには、③ のカードのみを配布する。本来使用しなければならないカード番号でなくても、申請は認められる。チームタイムアウト終了後、正しいカード番号に戻す。試合後半残り 5 分間は、1 回しか請求できない。後半 25 分を経過し、2 枚のカードがある場合は、番号の大きいカードを回収し、1 枚だけ残す。残り 5 分の誤った 2 回の請求をさせないためにも、回収を怠りなく行う。

コーチングゾーンを越えて記録席近くでグリーンカードを出したり引っ込めたりするような状態の時は、スポーツマンシップに反する行為としてレフェリーを呼び、罰則を適用するよう指示する。グリーンカードは、チームアウトを請求するときのみ持つこと。置いておくことが原則ではあるが、状況を見計らうことはあり得るので、コーチングゾーン内で短時間持っていたり、出すタイミングを計ることは認めなければならない。

プレーヤー兼任のチーム役員がカードを提出する場合、ABCD カードを首からぶら下げるか、手に持っていないなければならない。チーム役員登録をしていないプレーヤーはグリーン

カードを提出する権利がなく、受け取ってはならない。したがって、その試合にチーム役員が不在の時はチームタイムアウトの請求はできない。

⑨ 負傷したプレーヤー

プレーヤーが負傷して救護が必要な場合、レフェリーの指示に従ってプレーヤー、チーム役員を含めて関係者が2名コート内に入ることが許される。また、試合再開をスムーズにするために、MO・TD またはレフェリーの指示によって、交代するプレーヤーを予めコート内に入れることができる。

⑩ 出血

試合中、出血して血がユニホームに付着し拭き取れない場合は、ユニホームを交換しなければならない。その場合、番号は異なってもかまわない。競技中に外傷等が発生した場合、出血を認める場合はコート内に留まることは許されない。レフェリーが交代地域に戻ることを指示する。レフェリーが出血等に気がつかないときは、MO・TD が笛の合図でレフェリーに知らせる。止血の確認がなされた後、競技参加が可能となる。骨折、脱臼といった整形外科的外傷、脳震盪、心臓震盪、その他競技に出場することでプレーヤーの健康が明らかに阻害されると判断できる場合は、医師、専門家の判断を参考にして、チームの判断で出場の可否を決定する。ただし、誰が見ても明らかに競技することが適切でないと判断される場合は、競技に参加させることはできない。

モップ係は、プレーヤー等が出血し、その血がコート上についたときは、感染予防のため、通常のコップ、雑巾で拭いてはならない。モップ係または専任係は、直接血に触れないように、ゴム手袋を着用しなければならない。一度使用したゴム手袋、雑巾はその都度廃棄のための袋に入れ、感染予防の処置をした後、医療用廃棄物として廃棄しなければならない。

⑪ 通信機器の利用

競技中の競技役員の通信機器の利用を積極的に推進する。審判2名とTD1名の3台1セットが最小単位である。余裕があればもう1名のTDおよびMOが使用する。

本協会競技委員長、本協会競技・審判委員長は競技運営を円滑に推進するため、また、レフェリー支援のため、記録席または別の場所から通信機器を用い、レフェリー及びMO・TDに各種の助言、指示をすることができる。

⑫ 試合終了30秒前

試合終了間際30秒の失格、報告書付きの失格およびスポーツマンシップに反する行為が起きた場合は、競技再開は全て7mスローとなる。終了間際とは正規の競技時間だけではなく延長戦も含む。

⑬ 競技終了の合図

ブザー、または笛で行う。音が適切に競技者、観客に分かるよう管理する。

⑭ 試合終了後の挨拶

試合終了後はコート中央でサイドラインと平行に並び、ベンチ、観客がいれば反対側に挨拶をする。その後、すれ違いながら握手またはハイタッチをする。観客の有無を問わず、相手チーム役員もいることから国内でも積極的に実行する。

⑮ 最後の一投

いわゆる「最後の一投」を行う際、負傷したあるいは負傷を訴えたGK以外の防御側の選手の交代は、許されない。また、攻撃側の最後の一投をするプレーヤーは、直ちにその位置に着かなければならない。

⑯ 延長戦

延長戦の実施については、各大会で定める。正規の後半戦を終了した段階で、同点で勝敗が決しない場合は、延長戦を行う。第1延長戦を行ってもなお同点で勝敗が決しない場合は、第2延長戦を行う。

- ・ レフェリーがトスを行う。
- ・ 延長戦開始までの休憩時間は5分とする
- ・ 延長戦のハーフタイムは1分間である。休憩後に円滑に試合が始められるよう、審

判員と協力して対応する。

⑰ 7メートルスローコンテスト

延長戦を行い同点の場合は、7mTC により勝敗を決する。7mTC は次の要領で実施する。

原則は 5 名で行う。後半試合終了後、7mTC を行うプレイヤーのリストをレフェリーに提出する。大会によっては 3 名で行っても良い。7mTC の登録・記録用紙を利用すると管理が行いやすいので、活用すること。実施要領は次のとおり。

- ・ 先投、後投をコイントスで決定する。
- ・ 両チームのプレイヤー、チーム役員は、記録席業務の妨げにならないよう、使用するゴールの反対側のコートのセンターラインから 4.5m 離れた仮想ライン上に整列する。
- ・ 両チームのスローするプレイヤーは、4.5m の整列ラインから交互にスローに行く。
- ・ 交互に 7m スローを行い、得点の多いチームが勝利する。なお、スローの結果が 3 対 0、もしくは 4 対 1 などのように途中で勝敗が決まれば、その時点で 7mTC を終了する。
- ・ 7mTC を行う際、登録されてないプレイヤー、罰則を適用されているプレイヤーは参加資格がない。5 人制で実施する場合、状況によっては 5 人参加できない場合がある。その場合は、1 人少なければ 5 回目のスローが失敗した記録にする。補充はできない。



⑱ スコア誤記の取り扱い

スコアシートでの誤記載、誤記入が判明した場合、適正な状況から再開する。競技中、誤った判定、判断で競技が行われ、途中でその判定、判断が誤っていたことが判明した場合は、その時点で適正な処置をし、競技を再開する。試合終了後に記録ミスが判明した場合は、勝敗に関する場合は相応しい状況から再試合をしなければならない。修正した結果同点であった場合は、延長戦を行わなければならない。

また、プレイヤー、チーム役員にその責任を負わせることはない。競技規則からいえば、得点を認めた後にスローオフの笛が吹かれたなら、その得点は修正しない。

⑲ 裁定委員会

各大会に裁定委員会・上告委員会を設置する。裁定委員会は、競技委員長、競技副委員長、審判長とする。なお、必要に応じてプレイヤー、チーム役員、レフェリー、MO・TD 等の関係者を同席させ、事情を聴取することがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、原則として当日に裁定をし、関係者に通知する。その結果は、翌日には各会場に公示する。

ブルーカードの提示を含め裁定委員会を開催する場合、レフェリーとは別に兼裁定委員会開催要望書を競技委員長に提出する。

その試合で特記事項があれば、兼裁定委員会開催要望書を競技委員長に提出する。

**交代地域規程に違反する行為があった場合、あるいは、特別な出来事があった場合、MO・TD は速やかに失格に関する報告書、兼裁定委員会開催要望書を作成し、競技委員会委員長（裁定委員会委員長）に提出しなければならない。**

裁定委員会ではプレイヤー、チーム役員のみならずレフェリー、MO・TD、大会関係者も重大な過失を伴う行為、処置が伴う場合には審議対象者となり、裁定委員会の審議の議案に含まれている。

⑳ 臨時トレーナー

チーム役員は、本協会に登録されていないが、国内の特殊事情で、トレー

ナーが派遣役員等で、登録締め切り日までに氏名を特定できないことがある。その場合は、交代地域の外側に臨時トレーナー席を用意し、プレーヤーが負傷した場合、交代地域外のその場所で応急手当をすることを認める。臨時トレーナー席は交代地域の外になければならず、**おおむね GK ラインの延長線上**でベンチの後方に設置する。そのトレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることはできない。この席からコート内にいるプレーヤーに指示をすることは交代地域規程違反となる。違反した場合、罰則はチーム責任者に与えなければならない。MO・TD は、試合中のプレーヤーの応急手当の際の管理は MO・TD が行う。この臨時トレーナー席に立ち入ることの出来る該当者は、トレーナー等の公認資格を有していなければならない。必要であるときは身分証明書の提示は求めることが望ましい。

⑳ オウンゴール

オウンゴール（以下 OG という）の場合、OG となり得点したチームの得点欄に OG として記録する。個人の得点にはならないので、出場プレーヤーの記載のない欄に数字を得点として記録する。さらに、特記事項の欄に OG があったことを記載する。

㉑ チーム役員の退場

チーム役員が退場となったとき、退場者電光表示板の番号表示は入力しない。記録席の上に紙で掲示するときは、A から D と表記し、プレーヤーの入場時間を掲示する。

㉒ チーム責任者の許される行為

実判定以外の事項につき、必要かつ適正と認められる場合、チーム責任者だけが MO・TD を含み、記録席補助員と話しをすることができる。スポーツマンシップに反しない程度の得点が得点でないかの確認、問い合わせは許容されるべきである。

㉓ 通訳の配置

国際試合の場合、通訳（チーム付きを含む）を置くことができる。通訳席はベンチの後方に置く。通訳席、あるいは臨時トレーナー席で通訳業務以外のこと（声を発してプレーヤーに指示）をすることは許されない。大会役員や MO・TD との通訳をすることが主業務となる。国内大会では通訳を置く場合、チーム役員として登録されて交代地域にいないことが必要である。

㉔ 当該試合の関係者以外の競技場内への立ち入り

前半終了間際、あるいは、試合終了間際になると、次の試合のプレーヤーがコート近くにきて、各種の準備活動を始める。試合に影響がありそうなウォーミングアップ、ボールの使用は禁止するなど、大会によって、競技場内への入場を制限したりすること。

㉕ 突発的事象

突発的事象が発生し競技時間が終了していなかった場合、MO・TD は試合を終了させなければならない。

混乱によって試合当日に試合が続行できないと判断された場合は、原則として、観客の有無にかかわらず、翌日（別の日）に同スコア、同じ残り時間、中断時の状況から開始しなければならない。競技主催者、関係者と協議の上、再開方法など決定することが望ましい。

**大会、各試合の続行に関して特別な判断が求められる場合は、大会委員長、競技委員長および日本協会代表者が協議し、決定する。**

㉖ ドーピング対応

大会でドーピング検査を実施する場合は、レッドカード席を設ける。その場合、一発失格のプレーヤーはコート外周（大会により設置場所は異なる）に用意したレッドカード席に着席していなければならない。プレーヤーの管理はアンチ・ドーピング・コントロール班が行う。試合終了後、ドーピング検査の対象者となることがある。

㉗ 大会が認めたテレビ関係者は、チームタイムアウトの時間だけ交代地域の付近で報道活動することができる。また、コート内から、ベンチの活動を撮影することが許される。その他の時間帯の報道活動は、交代地域内での取材活動は許されない。

②9 上告

チーム関係者は、裁定委員会の決定に不服がある場合、通知書を受領してから 2 時間以内に文書で上告することができる。上告のための文書は形式任意とし、納付金 15 万円を添えて上告委員会に提出する。上告があった場合は大会上告委員会を開催する。

上告委員会は大会委員長、大会副委員長、総務委員長および大会委員長が指名した委員で構成する。大会上告委員会は上告の文書を受領してから 4 時間以内に最終決定を行う。この決定は最終のものである。

③0 レーザーポインターでの妨害

試合中、観客席等から競技を行っている関係者に対してレーザーポインターの照射が認められたとき、照射に気がついた関係者が MO・TD に報告し、MO・TD は会場アナウンサーを通じて照射をやめさせるように放送をする。引き続き照射が行われるようであれば、プレーヤー等関係者の健康を考慮して無観客試合とすることもあり得ることを放送する。

(参考) 2017 年 1 月開催の男子世界選手権では VTR 判定を導入して運営された。

- 1) ゴールかノーゴールか (ボールがゴールラインを完全に通過したかどうか)  
要求: レフェリーまたは IHF オフィシャル 最終判定: レフェリー
- 2) ゴールかノーゴールか (ボールが通過したのが終了合図と同時かどうか)  
要求: レフェリーまたは IHF オフィシャル 最終判定: レフェリー
- 3) ボールとは関係なく、レフェリーの視野外で起こった重大な違反行為  
要求: レフェリーまたは IHF オフィシャル 最終判定: レフェリー
- 4) レフェリーが誤って違うプレーヤーを失格にした場合  
要求: レフェリーまたは IHF オフィシャル 最終判定: レフェリー
- 5) 2 人あるいはそれ以上のプレーヤーによる衝突があった場合  
要求: レフェリー 最終判定: レフェリー
- 6) 不正交代で違反を犯したプレーヤーが特定できない場合  
要求: IHF オフィシャル 最終判定: IHF オフィシャル
- 7) 失格を判定したが、ブルーカードを適用すべきか疑わしい場合  
要求: レフェリー 最終判定: レフェリー
- 8) 競技終了 30 秒前で、レフェリーが 8:10c、8:10d を適用するかどうか疑わしい場合  
要求: レフェリー 最終判定: レフェリー
- 9) 競技終了 30 秒間で、ゴールキーパー不在で攻撃しているチームがボールを失った状況で (レフェリーがその後の違反行為で 7m スローを判定すべきかどうか疑わしい場合)  
要求: レフェリー 最終判定: レフェリー

研修資料 3 【公式記録用紙 - 例①】



- 社会人
- 学生
- 高専
- 高体連
- 中体連
- 小学生
- 日本協会

- 全国大会
- ブロック大会
- 都道府県大会
- 地区大会

- 男子
- 女子

試合番号 **A-23**

年月日 2019年2月3日(日)  
大会名 第70回日本ハンドボール選手権大会

公式記録用紙

A 豊田合成										B トヨタ車体									
都道府県 熊本県					市町村 山鹿市					会場 山鹿市総合体育館					回戦 決勝				
前半	A	B	最終結果	A	B	第1延長	A	B	第2延長	A	B	7mシュート	A	B					
	16	12	30	26															
7m得点/総数	A 0/2		チームタイムアウト			チームタイムアウト			B 4/4		7m得点/総数								
			1 2020	2 2349	3	1 0842	2 1714	3 2741											

No.	豊田合成	G	W	2'	2'	D	DR	No.	トヨタ車体	G	W	2'	2'	D	DR
1	藤戸 量介							2	笠原 謙哉						
2	大橋 隆之							3	石戸 貴章			1			
3	原 貴之							4	熊谷 昂						
4	野田 祐希							5	高智 海吏	5					
6	上田 勝大							6	内海 祐輔						
8	津波古 駿介	2						7	藤本 純季						
9	趙 顯章	2	1					11	津屋 大将	3					
10	水町 孝太郎	7		1				12	加藤 芳規						
11	HUGO LOPEZ	5						13	岡元 竜生			1	1		
13	今村 彰伸							14	玉城 慶也						
14	樋口 睦	3						17	杉岡 尚樹	6					
20 C	出村 直嗣	3						18	吉野 樹	3	1	1			
22	藤 勢流							19	菅野 純平			1			
23	橋本 明雄	5		1				20 C	渡部 仁	7					
24	佐々木 亮輔							21	甲斐 昭人						
25	中尾 俊介	3						22	門山 哲也	2					
役員A	田中 茂							役員A	香川 将之						
役員B	畠中 益喜							役員B	松村 昌幸						
役員C	杉山 正幸							役員C	山本 充伺						
役員D								役員D	大底 吉和						

A **田中 茂** チーム役員A署名 **香川 将之** B

レフェリー	池淵 智一	檜崎 潔	<b>池淵 智一</b>	<b>檜崎 潔</b>
TD	宮田 政克	建岡 欣也	<b>宮田 政克</b>	<b>建岡 欣也</b>
JHAオフィシャル	福島 亮一		<b>福島 亮一</b>	

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR) 特記事項に報告書として内容を記入

研修資料 3 【公式記録用紙 - 例②】



日本ハンドボール協会公式記録用紙

No. (10名用)

スローオフチーム トヨタ車体

A	大同特殊鋼	トヨタ車体	B
合計	25	26	合計
記録サイン	米松 誠	酒巻 清治	記録サイン

A	大同特殊鋼	警告	退場	失格	チームタイムアウト		延長	合計		
					前半	後半				
役員A	末松 誠				11	33	4	37		
役員B	小林 淳二						29	20		
役員C	大城 貴寿				得点					
役員D					前半	後半	延長	合計		
1	田中 雄大									
3	野村 喜亮				T	F		5		
4	藤江 恭輔				F	F		12		
5	石橋 龍				F			3		
6	加藤 嵩士					-		1		
8	久保 龍太郎									
9	武田 亨									
10	岸川 英誉									
11	平子 卓人									
12	久保 侑生									
13	池辺 大貴									
14	千々波 英明									
15	山城 貴志							1		
16	東 直明									
22	朴 重奎				T			2		
24	杉本 翔							1		
合計					2	0		11	14	25

B	トヨタ車体	警告	退場	失格	チームタイムアウト		延長	合計		
					前半	後半				
役員A	酒巻 清治				14	20	19	61		
役員B	山本 充伺						28	48		
役員C	大底 吉和				得点					
役員D					前半	後半	延長	合計		
2	笠原 謙哉									
3	石戸 貴章				T			2		
5	高智 海吏				F			4		
6	内海 祐輔									
7	藤本 純季				T	F		5		
8	藤田 聖史							1		
9	高木 翔									
10	木切倉 真一				F			4		
11	津屋 大将				F	T		5		
13	富田 恭介									
15	鶴谷 大輔									
16	松村 昌幸									
17	香川 将之							1		
18	崎前 博章							1		
20	渡部 仁				T			3		
21	甲斐 昭人									
合計					1	3		16	10	26

TO サイン 江成 元伸  
 記録サイン 梅山 潔  
 クイムキーパー サイン 佐橋 史臣

TO サイン 梅井 辰弼  
 記録サイン 池田 智一  
 スコアラー サイン 岩元 一輝

大会名	平成27年度 第67回日本ハンドボール選手権大会		
開催日	平成27年12月27日(日)	場所	愛知県体育館
種別	一般	男	回戦
			決勝

A	前半	B	後半	B
	0	32	1	10
	3	02	4	8
	3	27	2	10
14	W	4	18	
	4	37	3	5
	6	12	4	5
	6	35	5	8
3	1	7	07	
	7	42	5	5
5	2	8	15	
9	W	10	29	6
	11	33		0
	12	33	9	11
4	3	12	59	
5	4	13	34	
5	5	14	18	
	14	20		
	14	42	8	10
4	6	15	22	
22	7	16	31	
	17	30	9	11
	18	44	10	10
4	8	20	23	
	21	09	11	20
4	9	22	50	
	23	45	12	3
	24	42	13	3
3	10	25	19	
	26	40	14	11
	27	51	15	9
	29	23	16	9
22	11	29	54	
11=76				

A	後半	B	後半	B
4	12	0	49	
	1	18	17	11
	3	00	18	5
	3	56	19	9
	4	33	20	7
	4	37		
	5	45	21	8
15	13	9	46	
3	14	9	39	
4	15	10	55	
4	16	12	19	
	13	07	22	17
6	17	14	09	5
	14	47	23	9
3	18	15	14	
	15	54	24	20
	19	01		
	19	20	25	11
24	19	19	47	
4	20	20	54	
	22	11		5
3	21	23	56	
4	22	24	38	
4	23	25	33	
4	24	26	42	
	27	31	26	18
4	25	28	22	
	28	48		
	29	20		
25=26				

特記事項

# 研修資料 4【MO・TD 公式記録補助用紙】

## MO・TD 公式記録補助用紙

A										B																			
大会名				会場名				回戦		年	月	日	審判員																
前半		A	B	後半	A	B	最終		A	B	第1延長	A	B	第2延長		A	B	7mT コンテ スト											
7mT		得点/シュート数		チームタイムアウト				1		2前後		3		7mT		得点/シュート数		チームタイムアウト											
背番号	警告	退場	失格	失格(報)	得点								背番号	警告	退場	失格	失格(報)	得点											
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8				
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16				
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8				
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16				
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8				
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16				
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8				
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16				
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8				
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16				
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8				
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16				
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8				
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16				
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8				
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16				
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8				
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16				
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8				
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16				
					1	2	3	4	5	6	7	8						1	2	3	4	5	6	7	8				
					9	10	11	12	13	14	15	16						9	10	11	12	13	14	15	16				
チーム得点										チーム得点																			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10										
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20										
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30										
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40										
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50										
A					7mT					B					7mT														
					1	2	3	4	5	6	7	8	9						1	2	3	4	5	6	7	8	9		
					10	11	12	13	14	15	16	17	18						10	11	12	13	14	15	16	17	18		
A					チーム役員				選手 退場・失格				A					チーム役員				選手 退場・失格							
					警告	退場	失格	背番号	時間	背番号	時間	背番号	時間						警告	退場	失格	背番号	時間	背番号	時間	背番号	時間		
A																													
B																													
C																													
D																													





## 服装や保護を目的とした装具に関する規定

IHF国際ハンドボール連盟（2017年7月発表）を基準とする  
全日本大会では実施：ブロック、都道府県協会では推奨とする



### 1 頭部や顔への装具

2019年3月1日（公財）日本ハンドボール協会競技本部 審判委員会

品目	例	国内	国際	条件
① マスク		可	不可	IHFではマスクは使用できない 国内大会では、表情が読み取れ、柔らかい素材であれば、主催者の判断で使用を認める。
② ヘルメット		不可	不可	ヘルメットは使用できない
③ 鼻の保護		可	可	柔らかく、単色で、テープ式のもの

### 2 ヘアバンド

例	国内	国際	条件
	可	可	ゴムバンド式で、薄く、幅広くないもの
	不可	不可	ゴムバンド式でないもの、厚手のもの、幅広いは使用できない ※はちまきは伸縮性でなく、結び目から垂れた部分が危害を及ぼす可能性がある。国内では、主催者が、使用に支障がないと認めれば、使用を認める。

### 3 めがね・ゴーグル

例	国内	国際	条件
	可	可	<p>スポーツめがねやゴーグルは、スポーツ用のバンドがあり、平らなプラスチックレンズで、フレーム上部がシリコンなど柔らかい材質であること</p>
 <p>フレームが固い材質（バンド付）</p>	主催者が規定	不可	<p>IHFではスポーツめがねやゴーグルであっても、フレーム上部が固い材質のものは使用できない。 国内では、主催者が、使用に支障がないと認めれば、使用を認める。</p>

### 4 マウスピース

例	国内	国際	条件
	可	可	透明であり、単色のマウスピースは使用できる
	不可	不可	不透明や、複数の色のマウスピースは使用できない

## 5 肩の保護やアームスリーブ

品目	例	国内	国際	条件
① 肩の装具		可	可	肩の装具は、やわらかく、薄手の材質であれば使用できる。色は問わない。
② アームスリーブ		可	可	アームスリーブはユニフォームの大部分を占めている色と同色か、類似の色であれば使用できる。

## 6 肘の装具

品目	例	国内	国際	条件
① 肘あて	  	可	可	薄くて柔らかい材質であれば使用できる。色は問わない。
② 肘あて (3カ所に パットがつ いている)		可	可	3カ所に保護のためのパットがついている肘あては使用できる。パット部分はエンボス加工されており、肘が床を滑る際に適した構造になっている。
③ ネオプレン (合成ゴム の肘あて： 1枚のパッ ト)		可	可	広い1枚のパットを用いたネオプレンの材質の肘あては使用できる。パット部分はエンボス加工されており、肘が床を滑る際に適した構造になっている。
④ 肘の サポーター		可	可	薄くて柔らかい材質であれば使用できる。色は問わない。固い部分がすべて柔らかいもので覆われており（相手に危害を加えなければ）使用できる。
⑤ 肘の装具		不可	不可	固い部分がむき出しになっている装具は使用できない。

## 7 膝の装具

品目	例	国内	国際	条件
① 膝 サポーター		可	可	<p>柔らかい、薄手の材質であれば使用できる。色は問わない。</p> <p>固い部分がすべて柔らかい素材で覆われており、相手に危害を加えないと判断できれば使用できる。</p>
② 膝 サポーター (1枚の パット)		可	可	<p>広い1枚のパットで保護目的であれば使用できる。</p>
③ ネオプレン (合成ゴム の膝サポーター ：1枚の パット)		可	可	<p>広い1枚のパットを用いたネオプレンの材質の肘あては使用できる。</p> <p>パット部分はエンボス加工されており、膝が床を滑る際に適した構造になっている。</p>
④ 膝の装具		不可	不可	<p>固い部分がむき出しになっている装具は使用できない。</p>

## 8 ふくらはぎの装具

例		国内	国際	備考
		可	可	ふくらはぎへの装具は、靴下と同色であれば使用できる。
		不可	不可	靴下の色と一致しないふくらはぎへの装具は使用できない。

## 9 足首の装具

品目	例	国内	国際	条件
① 足首の装具		可	可	固い部分がすべて柔らかいもので覆われており、相手に危害を加えなければ使用できる。 国内大会では、靴下と同色でなくても使用を認める。IHFでは装具や覆うためのテープは靴下と同色とする。
② 足首の 固定具		可	可	固い部分がなければ使用できる。 国内大会では、靴下と同色でなくても使用を認める。IHFでは装具や覆うためのテープは靴下と同色とする。
③ 足首の装具		不可	不可	固い部分がむき出しになっており、靴下と色違いの装具は使用できない。

## 10 服装

### <概要>

- （ゴールキーパーを除いて）長ズボンを使用できない。
- 4カ所（短パン+膝の装具+ふくらはぎの装具+靴下）の使用は許可される。しかし、それぞれが分かれていること。
- アームスリーブはユニホームの大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
- サイクリングパンツも短パンの大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
- ふくらはぎの装具は、靴下と同色であること。
- 足首の装具は、靴下と同色であること（国内では、同色でなくてもよい）。
- 肘や膝の装具は色は問わない。

品目	例	国内	国際	条件
① スポーツ用 ヘッドス カーフ		可	可	単色のスポーツヘッドスカーフは使用できる。複数の選手がヘッドスカーフを使用する際は、全員が同色であること。
② スポーツ用 ではない ヘッドス カーフ		不可	不可	スポーツ用ではないヘッドスカーフは使用できない。
③ 長袖のアン ダーシャツ		可	可	ユニフォームの大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
		不可	不可	ユニフォームの大部分を占めている色と異なる色は使用できない。
④ サイクリン グパンツや ウォームパ ンツ		可	可	短パンの大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
		不可	不可	短パンの大部分を占めている色と異なる色は使用できない。

品目	例	国内	国際	条件
⑤ 長ズボン	   	可	可	ゴールキーパーは、長ズボン、長タイツ、短パン、短パンとサイクリングパンツなどを使用できる。
⑥ 靴下		可	可	靴下は同色で同じ長さを基本とする。
⑦ 上着	 	可	可	ゴールキーパーとなるコートプレイヤーはゴールキーパーと同一のものを使用する。穴を開ける場合は前後の番号の位置、透明なカバーをつけて穴を開けない場合も可能。 <b>国内では従来のピブスに穴を開けたものの使用を従来通り認める。</b>



## 11 アクセサリー

品目	例	国内	国際	条件
① イヤリング ピアス		可	可	小さいイヤリングやピアスは完全にテープで覆われていれば装着できる。
		不可	不可	完全にテープで覆われていないイヤリングやピアスは装着できない。
② ヘアピン		可	可	柔らかい素材でできているヘアピンは使用できる。金属やプラスチックのヘアピンの場合は、完全にテープで覆われていれば使用できる。
③ キャプテン マーク		可	可	単色のものであれば使用できる。
④ 短いリスト バンド	 	可	可	短いリストバンドは粘着性がなく、柔らかく、薄手のものであれば使用できる。
⑤ 長いリスト バンド		可	可	短いリストバンドは粘着性がなく、柔らかく、薄手のものであれば使用できる。長いリストバンドはユニフォームの大部分を占めている色と同色であれば使用できる。

品目	例	国内	国際	条件
⑥ 手首の装具		可	可	固い部分が覆われていれば、手首への装具は使用できる。
⑦ 手袋 グローブ		不可	不可	コート上で手袋やグローブは使用できない。ゴールキーパーも同様である。 交代地域での防寒具としての使用は認める。
⑧ フィンガー バンド		不可	不可	フィンガーバンドは使用できない。
⑨ 靴への 松ヤニ		可	可	靴に限り松ヤニをためておくことができる。そこから指へ補充する。 他の部位に松ヤニをためておくことはできない。

※ただし、会場使用上の条件によっては、靴への松ヤニを認めない場合もある。

平成31年4月1日  
(公財) 日本ハンドボール協会競技本部  
競技・審判委員会

## 裁定委員会開催基準

レフェリーが競技規則8の6および8の10(a)(b)に従いレッドカードの後にブルーカードを示した場合、またはマッチオフィシャル(これまでのJHAオフィシャル)、競技委員長が出場停止、もしくはそれ以上の処分を科すことが必要であると判断した場合は、裁定委員会を開催することとする。この判断は、レフェリー、マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長がそれぞれの立場で判断することであり、それらの一人でも必要と認めれば、各人の責任で「裁定委員会開催要望書」(報告書)を作成し、競技委員長に提出しなければならない。「裁定委員会開催要望書」は競技終了後のみならず、大会終了後においても作成することができる(後日映像を解析した結果必要と認められる場合も含める)。競技委員長は提出される報告書により、裁定委員会を開催する。これはプレーヤーやチーム役員だけを対象とするのではなく、レフェリー、大会関係者による重大な過失を伴う行為や処置に対しても適用される。「裁定委員会開催要望書」の作成は、レフェリー、マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長が作成するものとする。

### 1 目的

国内公式大会におけるハンドボール競技の健全化を図る主旨で、各大会に裁定委員会を設ける。

### 2 裁定

裁定しなければならない事項が生じた場合、裁定委員会はレフェリー、マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長が提出した「裁定委員会開催要望書」、または任意の書式による要望書をもとに審議し、その処置について決定する。報告書が提出されない場合は、裁定委員会は開催できない。なお、大会期間中の出場停止を超える処分が必要な場合は、大会主催団体の定められた会議において審議し、処分を審議する。さらに、加盟団体の処分の範囲を超える場合は、本協会の懲罰委員会に提訴する。

### 3 適用

競技規則8の6および8の10(a)(b)によりレッドカードのあとブルーカードが提示された場合は、裁定委員会を開催する。その他、大会、競技の関係者による重大な過失による行為、処置がなされた場合、裁定委員会を開催する。

### 4 裁定委員会

競技委員長、大会審判長、総務委員長、その他大会関係役員をもって委員会を構成し、開催する。状況を把握するために関係者を同席させる場合もある。

## 5 事実確認

審議を行う前に、提出された「裁定委員会開催要望書」に記載されている内容が事実であるかどうかを確認する。要望書を記載していない裁定委員会参加者（2名）によって確認を行うことが望ましい。その際、当該者側からも立ち会いを依頼する。

要望書の記載内容が事実である場合は、当該者に署名をしてもらい確定文書とする。その要望書をもとに裁定委員会にて審議を行う。

要望書の記載内容に当該者が同意できない場合は、事実確認を再度行う。その際、要望書の作成者を同席させることもできる。映像の解析により要望書を提出した場合は、その根拠となった映像をもとに再度検証を行う。

## 6 審議内容

### (1) 処分

1) 処分なし

2) 出場停止（試合数は裁定委員会で決定する。）

3) 大会出場停止（大会開催中であれば、その後の試合出場停止処分を決定する。後日、主催団体が懲罰委員会を開催する。審議の結果を日本協会に報告しなければならない。）

4) 有期限出場停止（大会期間中、もしくは大会終了後、主催団体が懲罰委員会を開催し、決定する審議の結果を日本協会に報告しなければならない。）

### (2) その他

競技規則、大会規程、その他ハンドボール競技にふさわしくない重大な過失を伴う判定・処置をした場合、本協会に対して提訴する。

## 7 決定通知

処分の有無にかかわらず、「処分通知書兼解除報告書」にて、当該者、あるいは、当該チーム責任者に通知する。チーム関係者以外の場合は、任意の書式で処分を通知する。

## 8 処分解除

処分（1）、処分（2）の場合、処分解除相当の時期に、大会競技役員による確認と、解除報告書、及び、登録証への記入・認印をもって解除とする。これにより当該者はそれ以降の公式試合に出場可能となる。

処分（3）の場合、処分解除時期に当該主催団体から本人宛に解除通知文書を通知する。通知は日本協会にも送付しなければならない。

## 9 裁定委員会開催までの流れ

担当レフェリー、担当マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長が裁定委員会の開催が必要と認めた場合、試合終了直後に判断し、当該者の登録証の返還をしない。その後、公式記録用紙、「裁定委員会開催要望書」と当該者の登録証を、裁定委員会に提出する。競技終了後の行為に関しては、登録証を提出できない場合もある。その場合は、後刻開催される裁定委員会に届出させるものとする。

裁定委員会の開催が必要と認められる場合は、レフェリー、マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長は相互に連絡を取り合う。裁定委員会開催に関して、審判員、マッチオフィシャル、競技委員長、大会審判長の意見が異なる場合は、一人でも報告書を提出することを希望すれば、裁定委員会を開催しなければならない。

大会関係者の場合は、必要に応じた処置をとる。

#### 裁定委員会の開催

審議しなければならない事項が発生した場合、原則として当日中に裁定委員会を開催する。また、審議の結果も原則として、当日中に当該者に連絡しなければならない。大会裁定委員長は提出された書類を整備し、委員会を招集する。委員長が不在の場合は代理者がその任務を代行する。委員会は過半数をもって成立する。

審議の結果、処分が必要とされた場合は、「処分通知書兼解除報告書」にて、当該者、あるいは、当該チーム責任者に通知する。

裁定委員会の結果は、裁定委員会報告書を作成して日本協会競技運営部に送付する。

#### 通知書の発行

出場停止処分以上を必要とする場合、当該者、あるいは、当該チーム責任者に「処分通知書兼解除報告書」を渡し、その処分を伝える。同時に、登録証裏面の備考欄に、期日、処分内容を記載し、返却する。

審議の結果、有期限処分が必要と裁定された場合は、裁定委員会は同一大会が開催されている期間内の出場停止を処分しなければならない。要領は上記の通りである。但し、登録証は返却しない。

#### 処分の解除

試合出場停止の場合は、当該者、または、当該チーム責任者が「処分通知書兼解除報告書」、登録証、及び、出場停止試合数分の公式記録用紙コピー（出場していないことを証明するため）を処分解除相当数が経過した後の公式試合競技役員（競技委員長、その他の競技役員）に提出する。

競技委員長（競技役員）は、処分解除の条件が整っていることを確認したとき、解除報告書、登録証に解除期日、押印をし、コピーを取った上でコピーを返却する。

#### 日本協会への連絡

大会競技委員長、及び、解除執行担当者は、処分通知書兼解除報告書原本を日本協会競技運営部に送付する。また、コピー1部と提出された公式記録用紙コピーを大会本部で保管し、各種問い合わせに対応出来るようにする。

## 10 処分の参考目安

重大な違反に対しては出場停止とする。違反の程度が重大と判断される場合はそれ以上の処分が必要となるが、裁定委員会で即決することなく、各大会主催団体の懲罰委員会提訴する。その場合は、大会中の出場を停止する処分をしなければならない。

## 2019年度 マッチオフィシャル(MO)・テクニカルデレゲート(TD) 映像研修資料・解説



(公財) 日本ハンドボール協会 競技・審判委員会

### 映像① タイムアウト後、再開と同時に公示時計が動いていない

#### (状況)

得点后レフェリーはタイムアウトをとり、プレーヤーに退場を与えた。時計は前半29分59秒で止まった。

再開のスローオフの笛と同時に、時計が動かなかった。

#### (正しい処置)

- ・ レフェリーは残り時間を見て、終了合図の後に退場を示すのが、よりスマートである。
- ・ 再開の笛の後、公示時計が動いていないだけなので、MO・TDは前半の競技を終了させてよい。時間を戻す必要はない。

### 映像② 後半残り5分間際でのチームタイムアウトの申請と競技時間

#### (状況)

チームは後半残り5分の状況で2回目のTTOを請求したつもりであったが、時計は25:00で止まった(映像はそれまでのリプレーが流れる)。

レフェリーの再開の笛の後、TDの合図によりレフェリーはタイムアウトを取り、時間を25:01、つまり残り5分で請求できる1回のTTOを使ったということで公示時計を修正し、競技を再開させた。

#### (正しい処置)

- ・ 映像では明確ではないが、請求の時間は25:00の前であり、止められた時間は25:00である。MO・TDは、この時間帯には敏感になるべきで、この場合は、あと1回を残した後半1回目のTTOとして認めるべきである。
- ・ TTOは50秒間ある。その中で、いまのTTOの請求時間等について、MOとTDは確認する。もし、残り5分を切っていたならば、50秒の合図の後、競技が再開される前に、TDがチーム役員へ「すみません。微妙なタイミングでしたが、いまのTTOは残り時間5分を過ぎてからでした。」等、丁寧に伝える。
- ・ 競技再開後に、安易に公示時計を操作しない。

### 映像③ タイムアウトと同時の公示時計が止まらなかった

#### (状況)

タイムアウトを取り、レフェリーは退場を判定したが、公示時計が止まっていないことにタイムキーパーを務めるTDが即座に気づき、競技再開をさせずに公示時計を修正させて対応した。

#### (正しい処置)

- ・ スマートな処置である。タイムキーパーを務めるTDは、タイムアウトと同時に、自らの時計を止め、公示時計が止まっていることをすぐに確認し、止まっていない場合は、自らの時計で時間を示し、修正を指示する。  
競技の再開を止めるように通信機器等を用い、レフェリーへ知らせることも必要。

### 映像④ 終了間際の得点かどうか微妙な場合

#### (状況)

競技終了の合図とほぼ同時に、ボールはゴールラインを通過した（この映像の角度からはわからないが、ボールがゴールネットを揺らしたと同時にブザーが鳴ったので、得点と判断できるが）。レフェリーは、TDと協議もせず、コートレフェリーが得点を認めない決定を下し、前半を終了させた。

#### (正しい処置)

- ・ 残り10秒から、通信機器を使用しているTDまたはMOによって、レフェリーにカウントダウンをしながら残り時間を知らせる。
- ・ 通信機器の環境がない場合は、レフェリーは公示時計が観察できる場所、あるいは競技終了の合図が聞こえるタイミングに集中し、決して観察を怠ってはならない。
- ・ カウントダウンを受け、明確な状況であれば、ゴールレフェリーが判定を下す。  
事実判定であり、MO・TDはそれを覆すことはできない。
- ・ MOまたはTDは、確認の意味も含め、ゴールレフェリーに確認する。  
微妙な場合は、レフェリー、TD、MO相互で確認を行い、判断を明確に下す。（レフェリー任せ、TD任せ、MO任せにはしない）

## 映像⑤ 競技を再開したが、公示時計が動いていないのでレフェリーは競技を中断した

### (状況)

タイムアウトのあと、レフェリーは競技を再開したが、公示時計が動いていなかったため、レフェリーは再びタイムアウトをとり、正しい状況で競技を再開させた。

### (正しい処置)

- 再開の前、レフェリーはテーブルに合図を送っておるが、テーブルからの反応はない（通信機器で確認できていたかもしれないが、機械操作のローカルTKからの合図はない）。その状況でレフェリーは競技を再開させてはならない。
- レフェリー、TD、MOすべてが、試合開始前に記録席のメンバーに対し、常に明確なコンタクトを取るよう指示する。このような中断は、レフェリー、チームの集中力を切ることにつながり、決してあってはならない。

## 映像⑥ チームタイムアウトを請求したチーム役員が、まだカードを持ったまま選手への指示を始めた

### (状況)

チーム役員がチームタイムアウトを請求し、記録席はそれを認めた。チーム役員は請求カードを持ったまま、選手への指示を始めたので、TDはチーム役員からそのカードを持ち去った。

### (正しい処置)

- 本来は、チーム役員はテーブルへ請求カードを提出すべきであるが、この場合は、請求を認めた以上、チームタイムアウト中におけるチーム役員の権利を保証し、カードを取り戻す等、チーム役員との余計な接触は避ける。
- 50秒の合図の後、競技再開へ促す流れの中で、カードを取り戻すとよい。

## 映像⑦-1 着地シュートで得点を認めなかったが、点数は加算され、修正された

### (状況)

レフェリーは明確に着地シュートの判定を下したが、スコアには4点目と追加された（得点されたチームも得点されたかと思い、スローオフから始めようとした）。気づいたTDからの指示を受け、試合中にスコアが修正された。



### (正しい処置)

- ・ 記録席のTDと機械操作を担当する地元役員は、このような得点でない場合は口頭で「今のは得点ではない」等確認を行う。  
この確認は、MOへも伝えること（伝えなかったため、以下映像⑦-2の場面につながる）。
- ・ スローオフの後で、口頭で確実に現在の得点を確認していく。相手チームに加点する等、起こりうるミスを想定し、TD個人の判断で修正させることがないよう、MOにも伝え、丁寧に対応する（伝えなかったため、以下映像⑦-2の場面につながる）。

## 映像⑦-2 一度、「1対4」にしたものを「1対3」に戻したので、MOに問い合わせがきた

### (状況)

上記映像⑦-1のあと、競技が続行される中、スカウティング（集計・分析）担当と思われる役員や、MOに対し得点の確認を要求した。

MOは、席を離れ、TDに確認した。その際、競技が中断された。

### (正しい処置)

- ・ TDは間違えに気づいた段階で、得点揭示を修正させる際、その修正はMOにも伝える。伝えていれば、MOより「今のは着地シュートの判定だったので得点は取り消した」等の説明ができ、競技を中断させる必要はなかった。

## 映像⑧ チームタイムアウト終了の合図から20秒後に競技が再開されている

### (状況)

（映像はチームタイムアウト内のリプレーが流れているので音声に注目）50秒を知らせる1回目のブザーが鳴り、その10秒後に1分間を知らせる2回目のブザーがなった（映像がもとに戻る）。チームはまだ、ミーティングを行っている。

この状況になって、ようやくTDが動き、再開を促した。20秒後に競技が再開された。

### (正しい処置)

- ・ TDは50秒の合図がなった段階で、チームのミーティングをやめさせ、1分後の合図に合わせて、競技を再開できるように促す。笛を強く吹き知らせる。
- ・ ミーティングの場所が、コート内である場合は、50秒の合図の後、コートの状況を確認し、必要であればモップを入れる。

## 映像⑨ 不正交代の判定の後の競技再開

### (状況)

TDは不正交代を確認し、笛を吹きレフェリーへ知らせた。レフェリーは退場の判定をした。その後の競技再開を、レフェリーは違反を犯したチームの交代地域より、相手チームのフリースローとしたが、TDが笛を吹いた時、ボールはゴールキーパーをしようとしたGKが保持していた。チーム役員の要望を受け、MOがレフェリーを呼び、競技規則通りにGKスローより競技を再開するよう伝えた。

### (正しい処置)

- ・ 正しい処置である。レフェリー、TDは競技が中断された際、判定を下す前に次の再開方法がどうなるべきなのかを瞬時に判断しなければならない。笛を吹いたTDがレフェリーに状況を説明する。
- ・ チーム責任者(A)の意見に耳を傾け、競技規則通りに適切に対処したMOの判断は正しい。その際、映像の通りボディランゲージを使って、周囲にも明確に伝えることが大切である。

## 映像⑩ 退場表示が相手チームに表示され、競技が再開された

### (状況)

退場者が相手チーム表示された。MO、TD、レフェリーは気づかずに競技が再開された。

### (正しい処置)

- ・ 競技を再開したのであれば、不要な競技中断は避けなければならない。この場合、退場の残り時間は正しいので、MO、TDがチームにその旨を伝え、そのまま競技をさせて良い。
- ・ 退場時間が満了する前に、タイムアウト等で競技が中断された場合は、その時間を利用して修正する。

## 映像⑪ GKの不正交代と得点チャンスの妨害(1)

### (状況)

GK不在の状況で攻撃していたが、ボール所持が相手チームとなる。GKは速やかに交代したかったが、不正な交代を行ったため、TDが笛を吹き競技が中断した。相手チームは直接無人のゴールにめがけてスローしたが、TDからの笛の後、ボールがゴールに入った。

### (正しい処置)

- ・ 不正交代にはアドバンテージを適用しないので、TDの笛のタイミングは正しい。
- ・ 笛の前に無人のゴールめがけてスローされ、ゴールに入る前に笛が鳴ったので、再開は7mスローとなる。

## 映像⑫ GKの不正交代と得点チャンスの妨害(2)

### (状況)

ターンオーバーの笛の後、攻撃側はGK不在の無人のゴールに向かって直接シュートをした。GKが不正交代を行ったため、TDは笛を吹いた。ほぼ同時にボールはゴールに入った。

### (正しい処置)

- ・ 不正交代にはアドバンテージを適用しないので、TDの笛のタイミングは正しい。
- ・ TDからの笛の前に無人のゴールめがけてスローされ、ゴールに入る前に笛が鳴ったので、再開は7mスローとなる。
- ・ GKとレフェリーが交錯し、危険な状況であった。通信機器を持っているTDまたはMOは、レフェリーに対し「GK不在」と明確に伝え、コートレフェリーからゴールレフェリーへ戻る際、このようなことにならないように通知する。

## 映像⑬ 退場時間が満了しないうちに、プレーヤーがコートに入り、TDが笛を吹いた

### (状況)

赤のユニホームのプレーヤーが、自チームの退場時間が2秒残っているにも関わらずコートに戻った。それに気づいたTDが笛を吹いてレフェリーに知らせた。新たな退場時間は掲示されたが、残された退場時間が掲示されていない。

### (正しい処置)

- ・ 退場後のコートへの入場はチームの責任であるため、MOやTDから入場許可の合図を行ってはならない。
- ・ レフェリー、TDで、コート上のプレーヤーの人数および退場時間について確認する。掲示すべき時間は、「残された退場時間」および「新たな2分間の退場時間」の2つである。

- ・ 満了しなかった退場時間を補うために減らしたプレーヤーは、あくまで人数の調整のためであり、そのプレーヤー個人に罰則は適用されない（余分なプレーヤーが入って競技が継続され、気づいた際、最後に入ったプレーヤーが特定できないときに、チーム役員に指名させるプレーヤーとは、この場合は異なる）。

## 映像⑭ フリースローの笛の後に起こった不正交代

### （状況）

攻撃側にフリースローが判定された後、TDより笛が吹かれ、攻撃側チームに不正交代が行われたとレフェリーへ知らせた。レフェリー、TD、MOとも競技の再開は、違反が行われた場所から、相手チームのフリースローと判断した。

### （正しい処置）

- ・ フリースローの判定の後、競技の中断中であるので、競技の再開は、攻撃側のフリースローである。
- ・ MO、TDは競技が中断された状況を適切に捉え、競技の再開についてレフェリーへ助言する。

## 映像⑮ 退場者がいるにも関わらず、7名のプレーヤーがコート上にいる

### （状況）

攻撃を終え、帰陣した際、1名退場者がいるにも関わらず、GKを含めた7名で防御していた。TDは気づいて競技を中断させたが、自ら交代地域へ戻るプレーヤー、交代地域から戻るプレーヤーの2名に対し、違反したプレーヤーを特定できず、交代地域側に近づいたプレーヤーを示した。実際は速やかに交代地域へ戻った13番が余分に入場した。

### （正しい処置）

- ・ TDは、自分が位置する側にいるプレーヤーの入退場を管理しなければならない。特に退場者がいて、GK不在の攻撃を行う際など、細心の注意を払うべきである。
- ・ この場合、最後に入場したプレーヤーが特定されない場合は、競技規則に則りチーム役員に退場となるプレーヤーを指名させる。チーム役員が拒否した場合は、TDが指名する。

## 映像⑩ ノータイムフリースロー時の不正交代

### (状況)

ノータイムフリースローとなった際、防御側は2名のプレーヤーを交代させた。先に22番、その後続いて23番がコート外に出、その後31番、11番が入場した。交代できないことに気づいたチームは、31番、11番をさげ、再び22番、23番をコートに戻した。31番は不正入場により退場になるので、レフェリーは、防御側プレーヤーのうち1名をコート外へ出るように促した。22番がコート外へ出た。

### (正しい処置)

- ・ ノータイムフリースロー時の、防御側の交代はできないので、この場合、交代として最初にコートに入った31番が退場として罰せられる。22番、23番は交代が認められないのでコートに戻ることができる。
- ・ TDは前半、後半の競技時間終了の際、ノータイムフリースローがある場合はチームを落ち着かせ、競技終了と勘違いしてコート内に入ったりすることがないように注意を払う。
- ・ ノータイムフリースローの際、防御側にできないのは交代であり、コートから出、代替りのプレーヤーが入らない状況は違反ではない。従って、31番が最初に入場したことで、交代が成立し、31番が退場となる。

## 映像⑰ ファールされたチームの役員がレフェリーへアピールする

### (状況)

自チームのプレーヤーが相手チームのプレーヤーより背後からファールを受けた。レフェリーは罰則なしで、フリースローの判定をした。(映像では見えないが)違反されたチームの役員が罰則を付加するようアピールをした。TDが競技を中断し、チーム役員に対し罰則を与えるようレフェリーに指示した。

### (正しい処置)

- ・ チーム役員の言動に対し、ベンチ側に座っているTDはその観察責任がある。チーム役員が、大きな声で、ジェスチャーをつけて判定に対して抗議した場合は、TDは毅然と対処する。立ち上がり、チーム役員の近くまで行く。この場合、ベンチの後ろからではなく、コート側より近づく。そして、柔らかく、人間性を持って、落ち着かせるように促す。
- ・ チーム役員に対し、TDやレフェリーがどのような態度を示すかも、観衆は注目する。TDが椅子に座ったままで対応しても、周りにはわからない。従って、TDの動きは、チーム役員をこれ以上興奮させない意味でも必要となる。

- ・ MOが配置されている場合でもまずはTDが対応すること。
- ・ TDの制止に対し、従わない場合はMOが対応することになる。

## **映像⑱ TDの制止直後に、繰り返しレフェリーアピールしたので、MOがレフェリーへ罰則を与えるよう指示**

### **(状況)**

オーバーステップのアピールをジェスチャーを交えて訴えていたチーム役員に対し、TDが対応した。

TDが戻る際、そのチーム役員は再びレフェリーに対し同様のアピールを繰り返した。MOが、笛を吹き、レフェリーを呼び、罰則を与えるように指示した。

### **(正しい処置)**

- ・ スマートな対応である。お互いが感情的になることを防ぐ意味でも、最初に対応したTDが、制止の後、興奮し機械的に罰則を適用する雰囲気にならないことが大切である。従って、TDは、注意を入れて落ち着いた後は、その場を離れること。
- ・ その後のチーム役員の観察はMOが行う。TDの制止に従ってくれたのであれば、視線が合った際にほほえんだり、うなずいたりと温かく受け入れ、映像のように指示に従わない場合は、決して放置せず、罰則の適用を促すことが必要である。

## **映像⑲ 相手チームへのアドバンテージを認めてから、TDが競技を中断する**

### **(状況)**

違反があったか、なかったか微妙な状況であったが、レフェリーは違反がないと言うことで競技を続行させた。チーム役員がジェスチャーを交えて抗議していたので、TDは相手チームの単身速攻の結果を見た後で競技を中断し、チーム役員への罰則の適用をレフェリーへ促した。

### **(正しい処置)**

- ・ 正しい処置である。不正交代ではないので、この場合は、アドバンテージを認めてから罰則を適用すること。
- ・ 不正交代の場合は、アドバンテージを考慮せず、即座に競技を中断しなければならない。

2019年度 全国審判員研修会およびマッチオフィシャル・TD研修会

## レフェリー指導者 ハンドブック 2019

(公財)日本ハンドボール協会  
競技・審判委員会



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



### 審判技術の向上に不可欠な四要素

- 1) **人間性** 2019年度重点事項
- 2) 競技規則の理解と運用
- 3) 技術
- 4) アスリートとしての体力



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



### ティーチングとコーチング

Teaching : 答えを教える

Coaching : 答えを自分で見つけ出すよう導く

四輪馬車 Kocsi (コチ) に由来

大事な人や物を輸送する ⇒ 目的を持った人を導く  
その役割を担うのが“コーチ”である



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



レフェリー指導者ハンドブック 2019

## インストラクター編



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



### インストラクターに求められること

(公財)日本ハンドボール協会ならびに各連盟、各都道府県等が主催する講習会、研修会において**講義、実技指導**を行っていただく



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



### 審判員育成のための指導の方向性

- 「国際審判員」「A級公認審判員」の育成
- トップレフェリーを目指し「継続的」な指導

人間性

模範



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



### 審判指導者としての役割

- ▶ **インストラクター**  
講義、実技指導を担当
- ▶ **アセッサー**  
レフェリングの評価とアドバイス



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



### “コーチ”としての存在

審判員の成長

強い意志を持ち、技術の向上を目指し、日々準備

しかし、そこには・・・

“コーチ”の存在が不可欠

学ぶことを忘れてはいけない



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



### インストラクターに求められること

外面的資質

- 表現力に富み、信頼を得る者
- 服装、身なりが端正

内面的資質

- 健康
- 情熱
- 尊敬される人格
- 公平
- 確固たる信念
- 誠実
- セルフコントロール
- 指導力
- 豊かな教養
- ハンドボールの知識
- 豊富な審判経験
- 分析能力と考察力
- 技能を見極め、求めているものを提供



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



### 指導の原則 ～To Do リスト～

- 思いやりを持つ
- 受講者が発言しやすい工夫  
⇒ 聞き手の理解度の確認、レベルに応じた指導につながる
- ポイントを絞り、実際の場面で実施できる内容
- 具体的な内容を提示(デモンストレーション、ビデオ等)
- 根拠に基づいた提示
- 学んだ内容の振り返り



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



## 指導上のヒント ～To Do そのためには～

- ① 正確な専門用語
- ② 最新の情報の収集
- ③ 明瞭な説明
- ④ やさしさと自信
- ⑤ 受講者の顔つきの観察
- ⑥ **強調**
- ⑦ **間を取る**
- ⑧ **繰り返す**

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 研修会、講習会 ～計画・立案～

**Why What Who**  
**When Where How**



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 研修会、講習会 ～計画・立案～

### ◆ インストラクターとして 重要な任務

### ◆ 適切なテーマ設定

テーマ設定  
の条件

- 1) ソフト面、ハード面 を考慮
- 2) ステップアップ につながるものを

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

### <講義形式>

※ 表内◎はメリット

受講者数	デメリット	注意点
多い	一方通行	興味を引く内容を挟む
少ない	内容から逸脱	◎相互通行での意思疎通 ◎能力、知識等の把握

### <実技形式>

受講者数	デメリット	注意点
多い	個々の欠点指導が困難 大雑把な指導	示範 飽きさせない ◎基本的事項の指導・伝達に有効
少ない	ポイントからの逸脱	強い指導力が求められる ◎沢山の実践 ◎技術の習得

## 研修会、講習会 ～計画・立案～

- ◆ 行動を起こさせる手段
- ◆ 聴き手側の視線での構成
- ◆ 印象
- ◆ 想定問答
- ◆ 成功のコツは「反復練習」



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## コミュニケーションのプロセス



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 話し手と聴き手の関係性

エトス(エートス) > パトス > ロゴス  
(アリストテレス 説得の三原則)

話し手に信頼感があってこそ、人は聴く耳を持つ。

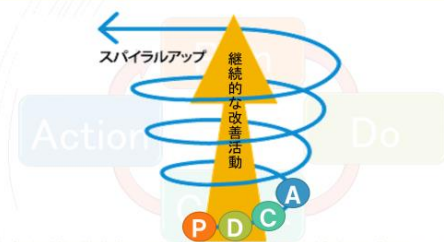
聴く耳を持つからこそ、感情が動く。

そして、その話が論理的であるからこそ、

話を理解してもらえる。**自ら行動したいと思う。**

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 次のステップへ



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 次のステップへ

### Presentation

贈られて嬉しいもの なら嬉しい!

Action ↓ Do

「どういふプレゼントなら相手は喜ぶか」  
をどこまで分析、情報の提供ができるか

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

レフェリー指導者ハンドブック 2019

## アセッサー編

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



## アセッサーに求められること

- 審判員としての経験
- 競技規則の理解と適用
- ゲーム観察
- 評価基準の統一性
- 力量と質の分析
- 実践的、技術的助言
- 評価表作成



## アセッサーに求められること

確信を持った価値ある評価を審判員に提供できるよう、そして、**国内外におけるトップレフェリーの育成・強化**を目指し、助言



## 任務 ～試合前～

- ◆ 余裕を持って到着
- ◆ 競技規則、ノート、筆記用具
- ◆ 審判員との顔合わせ
- ◆ 観察、評価場所



## 任務 ～試合中～

- ◆ 要点をメモ
- ◆ 観察ポイント
- ◆ 言動への注意
- ◆ ハーフタイムの過ごし方



## 任務 ～評価表への記入～

- ① 記入するタイミング
- ② 局面から全体へ
- ③ 客観的評価
- ④ Small Potato と Big Potato
- ⑤ 項目ごとに評価
- ⑥ 記載事項の点検

考慮すべきは  
審判がその瞬間に取っていた  
ポジションから見たはずのもの  
に対して…



### 評価方法

項目	この評価	正確	公平	客観	コメント (書かれている点・改善すべき点など)
(1) ゲーム管理	シロタリとしての判断・発動の的確さ 試合進行・調整・状況変化への対応 チームの統制・指導の徹底	✓			
(2) 準備	チームワーク・コミュニケーション 試合前の準備・注意事項の徹底	✓			
(3) ゲームの観察	試合進行の観察 ボールの動き・選手の動き・観客の反応				
(4) 1対1の判断	チームの動きを正確に観察 ボールの動き・選手の動き・観客の反応				
(5) 攻撃側の観察	ボールの動き・選手の動き・観客の反応 ボールの動き・選手の動き・観客の反応				
(6) ディフェンス	ボールの動き・選手の動き・観客の反応 ボールの動き・選手の動き・観客の反応				
(7) 進捗	試合進行の観察 ボールの動き・選手の動き・観客の反応				
(8) 時間の管理	試合進行の観察 ボールの動き・選手の動き・観客の反応				
(9) 動作	ボールの動き・選手の動き・観客の反応 ボールの動き・選手の動き・観客の反応				
(10) システム	ボールの動き・選手の動き・観客の反応 ボールの動き・選手の動き・観客の反応				

## 任務 ～試合後～

- ◆ 第一に慰労
- ◆ ミーティングのタイミング
- ◆ チーム関係者への対応
- ◆ ミーティングの実施



## 任務 ～ミーティング～

- ◆ 関係者のみで実施
- ◆ 一般手順
- ◆ 双方向からの意見交換
- ◆ ゲームの振り返り

- 1) ペアからの感想
- 2) 試合前の課題
- 3) 課題に対して
- 4) 重要事項の確認
- 5) 疑問点

## ミーティングを行う際の留意点

- ◆ 準備
- ◆ 言葉を引き出す
- ◆ 総合的な評価
- ◆ 所要時間

- 評価表の振り返り  
(色分けする等の整理も)
- どのように進めていくか  
プランを考える  
(次につながる指導にする)

## ミーティングを行う際の留意点

- ◆ 準備
- ◆ 言葉を引き出す
- ◆ 総合的な評価
- ◆ 所要時間

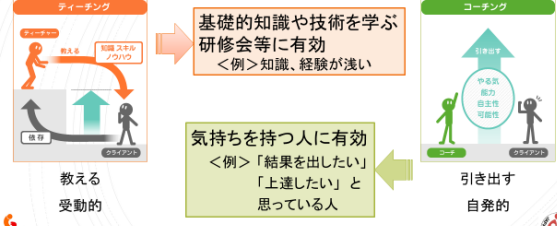
「なぜ」そう判断したのか  
↓  
気づきのヒント  
↓  
改善するにはどうすべきか  
本人の言葉で引き出せる  
よう試みる

## まとめ



	Teaching	Coaching
関係性	上下	対等
答え	教える	引き出す
コミュニケーション	一方向	双方向
行動	依存	自律
モチベーション	下がる	上がる

## “コーチ”として



## インストラクター／アセッサーとして

### Teaching

- ▶ 答えを教える



### Coaching

- ▶ 答えを自分で見つけ出すよう導く

## 2019年度 各級公認審判員の目標



2019. 1. 26

(公財) 日本ハンドボール協会競技・審判委員会

審判員に対し JHA / 連盟 / ブロック / 都道府県協会審判委員会が、共通の目標を持ち、一貫した指導をすることが必要である。

国内の審判員の多くは都道府県レベルの D 級審判員である。また各ブロック、全日本大会等で積極的に審判活動に関わっている者の多くは A 級および B 級審判員である。そのため、指導の方向としては審判員として、まず、国内最高峰である「A 級審判員」、および全日本大会を担当できる「B 級審判員」のそれぞれの目標を示す。B 級・C 級・D 級審判員がその次の目標を達成することができるように指導助言にあたることが重要になる。

審判技術の向上には以下の 4 つの要素が不可欠となる。

- 1) ハンドボールに携わるものとしての人間性 **(2019 年度重点事項)**
- 2) 競技規則の理解と正しい運用
- 3) 審判員としての技術
- 4) アスリートとして必要な体力

この 4 つの要素を各級審判員の目標の中に反映させ、指導助言にあたる。

### 1 A 級審判員の目標

**A 級審判員の目標**を「適切な位置取りと任務分担 (対角線式審判法) によって、事実を正しく見極め、的確な判定で、試合を円滑に進めることを追究する」とする。

その目標を達成するために

- ① 「レフェリー評価における着眼点」についてその項目の意味を熟知し、
  - ハンドボール競技の特徴をおよび競技規則の解釈と適用を理解した上で、行うべきこと、観察すべきことを適切に実践する。
  - 試合の流れやプレーの展開の予期・予測による実践と、審判員としての任務の遂行に努める。
- ② 瞬発力、スピード・反応性の強化を図り、持久力と的確な判断力の向上に努める。
- ③ **国内最高峰の大会である、日本リーグ・日本選手権さらには日本協会指名レフェリーとして、人間性を発揮し、よき模範として大会審判長・副審判長を補佐する。**

### 2 B 級審判員の目標

**B 級審判員の目標**を「競技規則を理解し、正しく運用することによって、試合を円滑に進めることを追究する」とする。

その目標を達成するために

- ① 競技規則試験において A 級審判合格ラインの 88% 以上の正答率
- ② B 級審判員の目標に記載されている各項目を熟知し、
  - ハンドボール競技、競技規則、審判員の役割など基本的な知識を理解する。
  - 競技規則に従って試合を運営することと、試合を運営するための基本となる技術の習得と実践。
- ③ フィジカルに対する基本姿勢を身につける。持久力をつける。
  - 体力テスト (シャトルランテスト) で男子 80、女子 70 の基準をクリアする。
- ④ 大会運営に関わる知識を身につけ、審判長 (大会、各都道府県等)、競技委員長の役割や任務を理解し協力する。

### 3 都道府県、ブロックにおける指導について

#### C 級および D 級審判員への指導指針

上記の A 級・B 級の審判員の目標に対する取り組みを踏まえ、C 級および D 級審判員には特に、

- ① 競技規則に従って試合を進めるための「競技規則の理解」を深めさせる。
  - 競技規則問題集を用いての座学、ビデオテスト、各種プレゼンを用いたアイトレーニングを各都道府県・ブロックにおいて積極的に実践する。
    - 例) 競技規則問題集から基本的な問題を抜粋し、**競技規則試験において 60%以上の正答率**。  
映像資料も分かりやすいものを抜粋する。
- ② 競技規則に従って試合を進めるための笛の吹き方やのジェスチャーの示し方、基本走法の定着を図る。
- ③ 試合の中で起きる事象を見極めるために必要とされる動きの量とスピードを養う。
- ④ 試合中は失敗を恐れず、競技規則に基づいて自分が判断したように、自信をもって判定できるように助言する。
  - 例) 7 mスローが必要かどうか悩むなら判定する。  
罰則が必要なら判定する（警告か即座に 2 分間の退場なのかの判断に悩んでも、どちらかは判定できるようにする）。  
※起きた事象に反応、判定する（C 級に向かって精度を高めていく）。
- ⑤ 基本的な事項を教える。
  - 例) 笛が必要な場面、CR と GR のポジションと役割分担の基本
- ⑥ 試合の中で起きる事象を見極めるために必要とされる動きの量とスピードを養うようにする。
- ⑦ ハンドボールに関わる人々からの情報を得て、「ハンドボール競技」に関する理解を深めるようにする。
- ⑧ 公認審判員としての心構えを教える。
  - 例) 服装、試合の準備の仕方など
- ⑨ 体力テストにおいて、B 級審判員の合格ラインである、シャトルランテスト（男子 70、女子 60）の基準をクリアする。

### 4 審判指導の基本として

「審判員の倫理綱領」を熟知させ、

- ハンドボールに関わるだけでなく、一般社会における「社会道徳」や「社会規範」について知り、実践する態度を養えるようにする。またハンドボール（審判活動）を通して見聞を広げ、広い視野をもって全日本大会・国際試合で活躍できる人材となれるよう育成する。
- 審判員としての活動によって、「**審判技術の向上**」を図るだけでなく、「**人間性の向上**」が**図れる**ようにする。またハンドボールファミリーの一員として「仲間を尊重」し、互いを認め合うために必要なコミュニケーション力が向上するよう育成する。
- 「教わるという姿勢」を持つことは当然であるが、「自分からチャレンジして発見し学ぶという姿勢」を持って、審判活動だけでなく、「ハンドボール」に関わっていけるようにする。また「仲間と競い合う」ことによって、他者の良い面を発見し、認めあいながら成長できるよう育成する。

## A級公認審判員の目標（2019年改訂）



全日本大会の審判員を担当することができるのはA級、B級の審判員である。その中で特にA級審判員には下記の点において期待したい。

- ① 全日本大会のみならず、日本リーグおよび日本選手権へのノミネートを目標に、さらには日本協会指名レフェリーとして認められ、各種大会での模範レフェリーとして活躍する。
- ② 人間性を発揮し、大会審判長、副審判長を補佐して、審判団のよきリーダーとして活躍する。
- ③ 試合において立ち居振る舞いはもちろんのこと、事実を正しく見極め、的確な判定を下し、TDやオフィシャル、チームとの連携をとりながら試合を円滑に進める。ハンドボール競技の特徴を理解した上で、試合の流れやプレーの展開の予期・予測による観察と瞬時の判断力を持つ。

以下に（公財）日本ハンドボール協会審判委員会作成の「レフェリー評価票」をもとに、A級審判員として追求したいレフェリーの姿とそのポイントを明記する。

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(1) ゲーム管理	レフェリーとしての要素・全体的印象	試合に関する的確な態度であるか。 タイミングが遅れた介入でゲームを見失ってはいないか。	○競技開始前の準備 ○リーダーシップ
	振る舞い 選手・役員とのコミュニケーション	不自然な、不安定な態度ではないか。 集中力を欠いているような仕草が見えないか。 チーム役員・プレーヤー・オフィシャルに対し、基準を明確に伝えるようボディランゲージや口頭による説明ができていないか(怒らせる・失礼である・傲慢である・親切すぎる)。 ベンチ管理（交代プレーヤー・チーム役員）。	○丁寧な指示と運営 ○TD、オフィシャルとの連携 ○チーム役員、選手との関係作り
	チームとの関係・平等であるか	試合に関する感情。公平な態度であるか。 一方のチーム役員やプレーヤーと接触していないか。 弁解や妥協しがちではないか。 ヤジとか批判に簡単に影響されていないか。	○コミュニケーションのバランス ○放置しない毅然とした対応
(2) 連携	チームワーク（オフィシャルを含めて）	誰が見ても分かるようにパートナー・オフィシャルとの協力ができているか。	○目に見えるコンタクトの雰囲気
	ペアで均一な判定	1人のレフェリーが支配したり、されたりしていないか。	○領域分担と判定者が一致しているか
	領域分担	パートナーの責任範囲を侵していないか。侵していることに気づいているか。	
(3) ゲームの観察	レベル・カテゴリーに応じた基準	プレーヤーの発達段階を考慮し、ゲームの流れを理解しているか。ゲームの流れに反した判定をしていないか。	○レベルに応じて運用するがルールを変えてはならない
	アドバンテージ・不必要な笛 発展性のないプレーの見極め 笛のタイミング	明らかな得点チャンスでのアドバンテージを見ているか。 アドバンテージ後の罰則を与えているか。 ルール違反のアドバンテージを与えていないか。 不必要な笛でプレーを止めていないか。 発展性のないプレーの見極めと、笛のタイミングは適切か。	○3歩、3秒の保障 ○不必要な笛を減らす ○発展性のないプレーの見極め ○2重のアドバンテージを与えない ○笛のタイミング

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(4) 1対1の局面	罰則 8:4にある即座に2分間退場への準備	許容範囲のハードプレーとアンフェアなラフプレーの区別ができていないか。 第8条に一致しない罰則を与えていないか。 スポーツマンシップに反する行為の見極めは妥当か。	○即座に2分間退場とすべきプレーを適切に見極めている ○試合開始直後からの準備 ○競技終了30秒間の集中
	チームに基準が理解されているか	罰則がよいバランスで判定されているか	○判定の後のジェスチャー ○プレーヤーへの基準の伝え方
	ハリウッドアクションの見極め	ハリウッドアクションを見抜き、予防的な処置を含めた、適切な処置ができていないか。	○大きな声、影響と倒れ方の関係 ○心の準備
(5) 攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反	違反を見逃していないか、探していないか。 正しい防御活動を認めているか。	○攻撃有利のフリースロー判定が多くないか
	ボールを持たないプレーヤーの違反		○ゴールレフェリーがボールばかり追っていないか
	正しいブロック/不正なブロック		○接触・違反のスタートの見極め
(6) 7mスロー	明らかな得点チャンスの見極め	適切に7mスローを与えているか。 明らかな得点チャンスでないものに7mスローを与えていないか。 GK不在の状況での明らかな得点チャンスの見極め。	○防御側プレーヤーの位置観察ができていないか
	ゴールエリア侵入と影響の見極め		○押し込まれてのエリア侵入を見極めているか
	ボールを所持していない明らかなチャンス		○違反がなければ明らかな得点チャンスになるプレーへの心の準備
(7) 違反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイム・明らかな着地シュート	正しく判定しているか。 明らかな得点チャンスを妨害され着地してシュートした場合は、7mスローに戻しているか。	○ステップ2歩+2歩の見極め ○ステップを誘発させる防御行為の見極め
	足を使った違反		○足を使った行為について適切に処置
	各種スローの判定と適切な実施		○ポイントの指示 ○正しいスローをしたか ○防御側プレーヤーの位置 ○修正後の再開の笛
(8) 時間の管理	パッシブプレーの予告合図のタイミング	予告合図のタイミングは適切か。	○選手交代、各種スローの実施の遅延に伴う予告合図 ○退場者がいる場合
	パッシブプレーの判定	違反の判定のタイミングは適切か。	○ボールを持ったプレーヤーがゴールに向かっての状況で違反の笛を吹かない
	タイムアウト	ルールに則って両チームに平等に与えているか。 与えすぎていないか。 タイミングが遅すぎていないか。	○タイムアウトを取らなければならない場面で適切に対処できているか ○競技時間の短縮を工夫しているか
(9) 動き  位置取り  ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか	2人の死角はないか。 プレーヤー・ボールから目を離してはいないか。 サイドチェンジのタイミングは適切か。	○防御形態に応じた領域分担当が臨機応変 ○レフェリーの基本走法
	明確なジェスチャー・笛の音	ルールブックにないジェスチャー、はっきりしないジェスチャーを用いていないか。 最初に方向指示をしているか。 笛の音は適切か(強弱、長短、軟硬の使い分け)。	○罰則、7mスロー判定の後 ○笛の音色で判定の種類がわかる
	体力・走力	レフェリングをするにあたり、十分な体力を有しているか。	○コート上でのウォーミングアップ ○後半でも走力が維持できる



## B級公認審判員の目標

B級審判員より全日本大会への参加資格が与えられる。国内のトップチームの試合を担当するためには、競技規則に従って試合を運営すること、および試合を運営するための基本となる技術を習得することが必須である。

以下にB級審判員が習得すべき事項について記載する。コート上で1人のレフェリーが主導権を握るレフェリーシステムは、ハンドボール競技には適さない。パートナーと常に連携と相互理解を図り、両レフェリーは様々な状況に関する考え方が一致していなければならない。レフェリーの任務も正しく分担されなければならない。

### <試合前>

- 1) トスには指定された時間に両レフェリー、TDが立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実にを行う。また、公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 2) ユニホームの確認は、必ずTDと協力し行う。判別し難いものは着用させない。レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。相手コートプレーヤーの色とチーム役員の色とが重複しないように呼びかける。また、プレーヤーの装具についても規定にあっているかどうか、TDと協力し、観察しておく。
- 3) ゴールやゴールネット、ボールなどの点検は前もって(選手紹介や選手の確認の前)行い競技開始直前に行わない。
- 4) オフィシャル席の仕事を理解し、シンプルかつ分かりやすく各種の合図をする。試合開始前に必ずオフィシャル席と業務の確認、および機器の操作の確認を行うこと。

### <試合開始時>

- 5) 競技の開始時刻を守る。(早く始めない) 早めに選手紹介等が終了したとしても、開始時刻が定刻となるようにTD、両チーム役員に開始までの時間を明確に伝える。

### <試合中>

#### ○ 得点の管理、時間の管理

- 6) 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シユート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。

また、時間の管理(タイムアウト)は1試合を通して同一の基準で、公平かつ平等に競技規則に則って処理する。どちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

## ○ 走法と位置取り

- 7) コート内のプレーヤーとボールから決して目を離さない。
- 8) 得点合図の後、決して2人の位置を交代しない。
- 9) バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 10) 走りながら、あるいはプレーヤーに背を向けて方向指示やジェスチャーをしない。判定の後その直後の選手、ボールの動きを必ず確認し、次の行動へ移る。
- 11) ゴールレフェリーは、コート内に立たないことを基本とし、展開に応じて前後左右に移動する。
- 12) 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレーヤーの利き腕側に立つ。
- 13) CP7名の状況で、GKとCPの交代の妨げにならないような位置取りを。

## ○ 判定の手順、ジェスチャー

- 14) 判定の手順を守る。
  - ①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー
- 15) 正しいジェスチャーを用い、余計なレフェリーのアクションやコミカルな動作は慎む。

## ○ 立ち居振る舞い

- 16) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで、プレーを観察することがないように。
- 17) コート上で腕組み、両手を腰に当てる、ポケットに手を入れる、休めの姿勢など論外。
- 18) 警告・退場・7mスローを判定したときには、その理由は何かを皆にわかるように大きく1回ジェスチャーする。

## ○ 役割分担

- 19) コートレフェリーは、7mスローを判定しない。
- 20) コートレフェリーは、ゴールエリアへの侵入(ラインクロス)を判定しない。
- 21) 領域分担を明確にし、ペアのレフェリーの近くで起こっているプレーに対して、遠い位置から判定をしない。

## ○ 競技規則の正しい運用

- 22) 警告には、原則としてタイムアウトは必要ない。
- 23) 退場を判定するときは、①タイムアウト ②ジェスチャー14
- 24) 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り2人で協議する。

## <試合終了後>

- 25) 公式記録用紙に正しく記入されているかどうか確認する。



## < B級公認審判員チェックリスト >



◆ 試合前	チェック
1) 両審判、TDが立ち会いのもとスを実施	<input type="checkbox"/>
2) メンバー表、登録証の確認	<input type="checkbox"/>
3) ユニホームの確認（濃淡ははっきりした物：チーム同士、レフェリーウェアとチーム）	<input type="checkbox"/>
4) チーム役員のウェアの確認（相手チームのコートプレーヤーと重複していないか）	<input type="checkbox"/>
5) プレーヤーの装具は、規定に沿ったものかどうかを観察	<input type="checkbox"/>
6) ゴールやゴールネット、ボールの点検（事前に）	<input type="checkbox"/>
7) オフィシャルとの連携（業務の確認、機器操作・動作の確認）	<input type="checkbox"/>
◆ 試合開始前	チェック
8) 定刻でのスローオフか	<input type="checkbox"/>
◆ 試合中	チェック
<b>得点の管理、時間の管理</b>	
9) 得点の管理はできているか（得点のたびに確認しているか）	<input type="checkbox"/>
10) 時間の管理（タイムアウト）は競技規則に則って処理できているか	<input type="checkbox"/>
11) 時間の管理はできているか（目視による公示時計の動作確認）	<input type="checkbox"/>
<b>走法と位置取り</b>	
12) コート上の選手とボールから目を離していないか	<input type="checkbox"/>
13) 得点合図の後に、位置の交代をしていないか	<input type="checkbox"/>
14) ゴールレフェリーへの移動時：バックステップで移動していないか	<input type="checkbox"/>
15) 走りながら、あるいは選手に背を向けて方向指示やジェスチャーをしていないか	<input type="checkbox"/>
16) ゴールレフェリー時：同じ場所に立ち続けていないか	<input type="checkbox"/>
17) 7mTの際のコートレフェリー：スロアーの利き腕側に立っているか	<input type="checkbox"/>
18) GKなしでの攻撃（6人 or 7人）で、審判の位置取りは交代の妨げとなっていないか	<input type="checkbox"/>
<b>判定の手順、ジェスチャー</b>	
19) ① 笛 ② 方向指示 ③ジェスチャー の判定の手順を守っているか	<input type="checkbox"/>
20) 正しいジェスチャーを用いているか	<input type="checkbox"/>
<b>立ち居振る舞い</b>	
21) ペアで同じ種類の笛を使用しているか	<input type="checkbox"/>
22) 笛を口にくわえたまま、観察していないか	<input type="checkbox"/>
23) コート上での立ち姿はどうか（ポケットに手を入れる、休めの姿勢になっていないか）	<input type="checkbox"/>
24) 罰則や7mTを判定した後のジェスチャーは、はっきりと1回だけ示しているか	<input type="checkbox"/>
<b>役割分担</b>	
25) 明確であるか（7mT、ゴールエリアへの侵入など、ペアの領域を判定していないか）	<input type="checkbox"/>
26) ペアと連携、相互理解を図っているか	<input type="checkbox"/>
<b>競技規則の正しい運用</b>	
27) 警告を判定する際、タイムアウトを取っていないか	<input type="checkbox"/>
28) 退場を判定する際、①タイムアウト ②ジェスチャー14 の手順となっているか	<input type="checkbox"/>
29) 差し違えた場合、必ず ①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか	<input type="checkbox"/>
試合中終了後	チェック
30) 公式用紙に正しく記入されているかどうか確認したか	<input type="checkbox"/>


# B級審判員の目標

## レフェリーとしての基本事項励行

コート上で1人のレフェリーが主導権を握るレフェリーシステムは、ハンドボール競技には適さない。パートナーと常に連携と相互理解を図り、両レフェリーは様々な状況に対する考え方が一致していなければならない。レフェリーの任務も正しく分担されなければならない。

＜試合前＞

- 1) トスには指定された時間に両レフェリー、TDが立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に。また、公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 2) ユニホームの確認は、必ずTDと協力し行う。判別し難いものは着用させない。  
×「濃:濃」「淡:淡」 ○「濃:淡」  
レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。
- 3) ゴールやゴールネットなどの点検は前もって行い、競技開始直前に行わない。



1/19

- 4) オフィシャル席の仕事を理解し、シンプルかつ分かりやすく各種の合図をする。試合開始前に必ずオフィシャル席と業務の確認を行うこと。


＜試合開始時＞

- 5) 競技の開始時刻を守る。(早く始めない)  
早めに選手紹介等が終了したとしても、開始時刻が定刻となるようにTD、両チーム役員に開始までの時間を明確に伝える。

＜試合中＞

- 得点の管理 時間の管理


- 6) 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。また、時間の管理(タイムアウト)は、1試合を通して同一の基準で、公平かつ平等に競技規則に則って処理する。  
どちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。



2/19

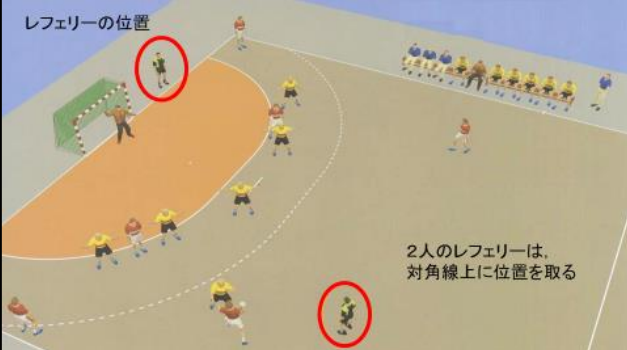
- 走法と位置取り

- 7) コート内のプレーヤーとボールから決して目を離さない。
- 8) 得点合図の後、決して2人の位置を交代しない。
- 9) バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 10) 走りながら、あるいはプレーヤーに背を向けて方向指示やジェスチャーをしない。判定の後、その直後のプレーヤー、ボールの動きを必ず確認し、次の行動に移る。
- 11) ゴールレフェリーは、原則としてコート内に立たない。
- 12) 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレーヤーの利き腕側に立つ。




3/19

### レフェリーの位置



2人のレフェリーは、対角線上に位置を取る

### コートレフェリーとゴールレフェリーの位置の交代



交代するタイミングは…

- ・タイムアウトあるいはチームタイムアウトのとき
- ・7mスローを判定したとき
- ・罰則を適用したとき など

★コートプレーヤーとゴールキーパーの交代時に注意

※ 得点の合図の後、決して2人の位置を交代してはならない

両レフェリーは前後半それぞれで、少なくとも一度は4つの基本的な位置でプレーを観察しなければならない


7/19

### GKなしでの攻撃(6人or7人)の際のコートレフェリーの位置




6/19

### 基本的な走路



ア) ゴールレフェリー  
イ) コートレフェリー

ア) コートレフェリー  
イ) スローオフ時

ア) ゴールレフェリー

A 通常の走路  
B 得点後の走路

7/19

コートレフェリーからゴールレフェリーへの走路と走法



1 方向転換のときも、ボールとプレーヤーから目を離さない

2 素早くサイドラインの方向へ移動する

3 走り方に注意する。バックステップは動きが遅く、危険を伴う

4

5 プレーヤーの妨げにならないように、サイドラインの外側を走る

6

7

8

コートレフェリーからゴールレフェリーへの走路と走法



9

10 基本位置へ素早く移動するよりも、観察し続けることが重要

11

12 状況に応じて、立ち止まってプレーを観察する

13 パートナーの位置と...

14 分担当を確認し続ける...

15 基本位置につき

16

プレーのスピード化に対応したレフェリーの走法

攻防が切り替わった瞬間に、レフェリーが忠実に実践すべき基本原則。

1. 速いプレーにおいても、プレーを見失ってはならない。目を離らしてはならない。
2. コートレフェリーからゴールレフェリーに移動する最中に起こるプレーをよく観察しなければならない。そのための体の向きに注意しなければならない。
3. ゴールレフェリーの位置につくために速く走るよりも、立ち止まってでも全体を観察することが大切である。
4. **プレーの観察を最優先する。**コートレフェリーを務めていたレフェリーは、(例えば1対1の)攻防を注意深く観察するためであれば、少し立ち止まってプレーヤーを先に走らせてもよい。
5. ゴールレフェリーの位置を離れてコートレフェリーとしてプレーを追いかけるとき、決して**両チームのプレーヤーを背後に置いてはならない。**
6. 両レフェリーは、任務分担当するコートを得点後に交代してはならない。また、対角に向かってコートを横切ると、クイックスローオフを妨害することになりかねない。
7. バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いてはならない。

○判定の手順 ジェスチャー

- 13) 判定の手順を守る。①笛 ②方向指示(再開方法) ③(必要に応じて)ジェスチャー
- 14) 正しいジェスチャーを用い、余計なレフェリーのアクションやコミカルな動作は慎む。

○立ち居振る舞い

- 15) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたまま、プレーを観察することがないように。
- 16) コート上で腕組み、両手を腰に当てる、ポケットに手を入れる、休めの姿勢など論外。
- 17) **警告・退場・7mスローを判定したときには、その理由が何かを皆にわかるように、大きく1回ジェスチャーする。**

11/19

正しいジェスチャーを用いる



○役割分担

- 18) コートレフェリーは、7mスローを判定しない。
- 19) コートレフェリーは、ゴールエリアへの侵入(ラインクロス)を判定しない。

○競技規則の正しい運用

- 20) 警告には、原則としてタイムアウトは必要ない。
- 21) 退場を判定するときは、①タイムアウト ②ジェスチャー-14
- 22) 指し違えたときは、必ずタイムアウトをとり2人で協議する。

13/19

コートレフェリーの役割



基本的な位置取り

- ・バックコートプレーヤーの後方に位置する
- ・ゴールレフェリーとは対角線上
- ・防衛隊形によって変化する。コートの広がりや奥行きに応じて位置を移動する

基本的な役割

- ・ボールに近いところの違反を観察する
- ・スローの実施(スローオフ・フリースロー→7mスロー)
- ・必要に応じて再開の笛を吹く
- ・**プレーヤーとのコンタクト**

ゴールレフェリーの役割

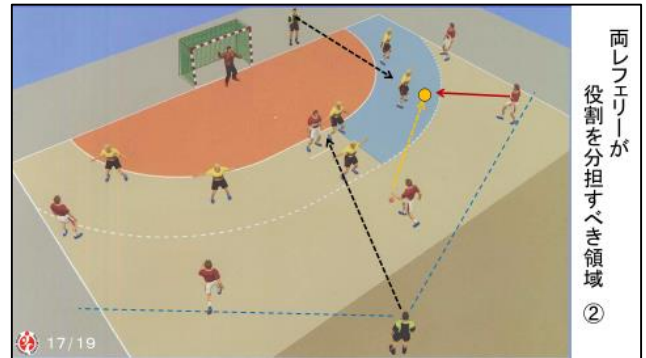
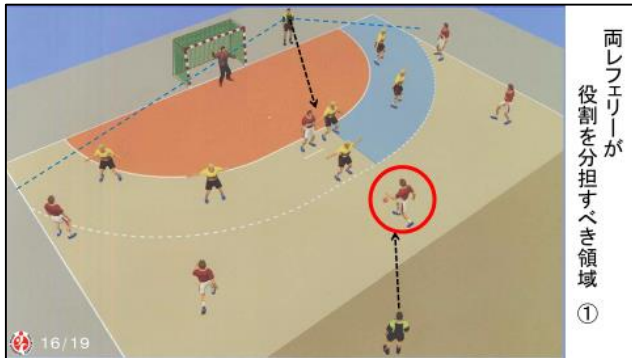


基本的な位置取り

- ・アウトゴールライン沿いのコート外に位置する
- ・ゴールポストからおよそ3m離れる
- ・状況に応じて位置取りを変える(コート中に位置することもある)

基本的な役割

- ・ゴールエリアへの侵入を観察する
- ・ボールの無いところの違反を観察する
- ・自サイドの分担当領域の攻防を観察する
- ・得点を認める
- ・7mスローの判定 **エリア際の判定**
- ・自サイドのスローインを決定する





## C級公認審判員の目標

C級審判員は、公式試合（ブロック大会レベル）への参加資格が与えられる。ブロック大会は、各都道府県の代表チームの対戦であり、また全国大会の予選会である場合がほとんどである。

そのような公式試合を担当するためには、競技規則に則って試合を運営すること、および試合を運営するための基本となる技術を十分理解し、実践することが求められる。

また、競技規則の理解においては、競技規則試験において8割以上の正答率（B級審判員認定に必要）が求められる。

以下にC級審判員が十分理解し、実践すべき事項について記載する。

### <大会への参加>

- 1) 審判会議、代表者会議に出席し、その大会における申し合わせ事項などの共通認識を図る。  
出席にあたっては、ブレザー・ネクタイを着用する（本協会制定のものを推奨する）。
- 2) 大会審判員としての自覚を持つこと。所属都道府県の応援をしたり、他のレフェリーの批判をしたりするのは慎む。観衆、チーム関係者に見られていることを忘れない。

### <試合開始前>

- 3) トスには指定された時間に両レフェリー、TDが立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 4) ユニホームの確認をTDと共にする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の服の色についても助言する。レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。
- 5) ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。
- 6) ゴール、コートやボールの点検を行う。
- 7) オフィシャル席と業務の確認を行うこと（得点、罰則、時間の管理について）。

### <試合開始時>

- 8) メンバーチェックを登録証とともに確認する。
- 9) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。

## <試合中>

### ○ 得点の管理、時間の管理

- 1 0) 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シユート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。  
また、時間の管理は試合開始時、タイムアウト時、再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

### ○ 走法と位置取り

- 1 1) CRとGRの基本的な立ち位置や動きを意識する。  
CRは判定の後にポイントに素早く移動する。  
GRへの移動時、バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。  
1 2) 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立つ。

### ○ 判定の手順、ジェスチャー

- 1 3) 判定の手順を守る。  
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー  
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

### ○ 立ち居振る舞い

- 1 4) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで、プレーを観察することがないように。

### ○ 役割分担

- 1 5) コートレフェリーは、7mスローを判定しない。  
1 6) コートレフェリーは、ゴールエリアへの侵入(ラインクロス)を判定しない。

### ○ 競技規則の正しい運用

- 1 7) 退場を判定するときは、必ずタイムアウトを取る。  
1 8) 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り2人で協議する。

## <試合終了後>

- 1 9) 試合終了の挨拶(両チーム役員・オフィシャル)をして、公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。  
2 0) 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。審判手帳に記載する。  
審判長に捺印をお願いする。

## < C級公認審判員チェックリスト >



<b>◆ 大会への参加</b>	チェック
○ 審判会議、代表者会議に参加し、申し合わせ事項等の共通認識を図る	<input type="checkbox"/>
○ 大会審判員としての自覚を持つこと。常に見られていることを忘れないこと	<input type="checkbox"/>
<b>◆ 試合前</b>	チェック
1) 両審判、TDが立ち会いのもとトスを実施	<input type="checkbox"/>
2) メンバー表、登録証の確認	<input type="checkbox"/>
3) ユニホームの確認（濃淡ははっきりした物：チーム同士、レフェリーウェアとチーム）	<input type="checkbox"/>
4) チーム役員のウェアの確認（相手チームのコートプレーヤーと重複していないか）	<input type="checkbox"/>
5) ウォーミングアップは、選手と共にペアで行う	<input type="checkbox"/>
6) ゴールやコート、ボールの点検	<input type="checkbox"/>
7) オフィシャルとの連携（業務の確認：得点、罰則、時間の管理について）	<input type="checkbox"/>
<b>◆ 試合開始前</b>	チェック
8) メンバーチェックを登録証とともに行う	<input type="checkbox"/>
9) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶	<input type="checkbox"/>
<b>◆ 試合中</b>	チェック
<b>得点の管理、時間の管理</b>	
10) 得点の管理はできているか（得点のたびに確認しているか）	<input type="checkbox"/>
11) 目視による公示時計の動作確認（どちらかが、試合開始時、タイムアウト時、再開時に）	<input type="checkbox"/>
<b>走法と位置取り</b>	
12) 基本的な立ち位置や動きを意識しているか	<input type="checkbox"/>
13) コートレフェリー時：判定の後に素早くポイントに移動しているか	<input type="checkbox"/>
14) ゴールレフェリーへの移動時：バックステップで移動していないか	<input type="checkbox"/>
15) 7mTの際のコートレフェリー：スロアーの利き腕側に立っているか	<input type="checkbox"/>
<b>判定の手順、ジェスチャー</b>	
16) ① 笛 ② 方向指示 ③ジェスチャー の判定の手順を守っているか	<input type="checkbox"/>
17) 正しいジェスチャーを用いているか	<input type="checkbox"/>
<b>立ち居振る舞い</b>	
18) ペアで同じ種類の笛を使用しているか	<input type="checkbox"/>
19) 笛を口にくわえたまま、観察していないか	<input type="checkbox"/>
<b>役割分担</b>	
20) 明確であるか（7mT、ゴールエリアへの侵入など、ペアの領域を判定していないか）	<input type="checkbox"/>
<b>競技規則の正しい運用</b>	
21) 退場を判定する際、①タイムアウト ②ジェスチャー14 の手順となっているか	<input type="checkbox"/>
22) 差し違えた場合、必ず ①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか	<input type="checkbox"/>
<b>◆ 試合中終了後</b>	チェック
23) 両チーム役員やオフィシャルと挨拶	<input type="checkbox"/>
24) 公式用紙に正しく記入されているかどうか確認後、サイン	<input type="checkbox"/>
25) 大会審判長や他のレフェリーへ助言を求める	<input type="checkbox"/>
26) 審判手帳に担当試合を記載し、審判長に捺印をお願いする	<input type="checkbox"/>



## D級公認審判員の目標

D級審判員は、公式試合（都道府県大会レベル）への参加資格が与えられる。公式試合を担当するためには、競技規則に従って試合を運営こと、および試合を運営するための基本となる技術を**理解し、実践することが求められる**

また、**競技規則の理解**においては、**競技規則試験において6割以上の正答率(C級審判員認定に必要)**が求められる。

以下にD級審判員が公認審判員として理解し、実践すべき事項について記載する。

### <試合開始前>

- 1) 遅くとも、試合開始時刻の1時間前までに会場に到着できるように移動する。
- 2) 大会本部に挨拶をし、控室にて更衣をするなど準備をする。
- 3) トスには指定された時間に両レフェリー、TDが立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実にを行う。また、試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 4) ユニホームの確認をTDと共にする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の服の色についても助言する。レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。
- 5) ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。
- 6) ゴール、コートやボールの点検を行う。
- 7) オフィシャル席と業務の確認を行うこと（得点、罰則、時間の管理について）。

### <試合開始時>

- 8) メンバーチェックを登録証とともに確認する。
- 9) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。



## <試合中>

### ○ 得点の管理、時間の管理

- 1 0) 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シユート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。  
また、時間の管理は試合開始時、タイムアウト時、再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

### ○ 走法と位置取り

- 1 1) CRとGRの基本的な立ち位置や動きを意識する。  
CRは判定の後にポイントに素早く移動する。  
GRへの移動時、バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。  
1 2) 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立つ。

### ○ 判定の手順、ジェスチャー

- 1 3) 判定の手順を守る。  
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー  
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

### ○ 立ち居振る舞い

- 1 4) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたまま、プレーを観察することがないように。

### ○ 役割分担

- 1 5) コートレフェリーは、7mスローを判定しない。  
1 6) コートレフェリーは、ゴールエリアへの侵入(ラインクロス)を判定しない。

### ○ 競技規則の正しい運用

- 1 7) 退場を判定するときは、必ずタイムアウトを取る。  
1 8) 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り2人で協議する。

## <試合終了後>

- 1 9) 試合終了の挨拶(両チーム役員・オフィシャル)をして、公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。  
2 0) 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。審判手帳に記載する。  
審判長に捺印をお願いする。

## < D級公認審判員チェックリスト >



<b>◆ 試合前</b>	<b>チェック</b>
1) 遅くとも、試合開始時刻の1時間前までに会場に到着	<input type="checkbox"/>
2) 会場に着いたら大会本部に挨拶をし、控室にて準備(更衣、ストレッチなど)	<input type="checkbox"/>
3) 指定された時間に、両審判、TDが立ち会いのもとトスを実施	<input type="checkbox"/>
4) メンバー表、登録証の確認	<input type="checkbox"/>
5) ユニホームの確認(濃淡ははっきりした物: チーム同士、レフェリーウェアとチーム)	<input type="checkbox"/>
6) チーム役員のウェアの確認(相手チームのコートプレーヤーと重複していないか)	<input type="checkbox"/>
7) ウォーミングアップは、選手と共にペアで行う	<input type="checkbox"/>
8) ゴールやコート、ボールの点検	<input type="checkbox"/>
9) オフィシャルとの連携(業務の確認: 得点、罰則、時間の管理について)	<input type="checkbox"/>
<b>◆ 試合開始前</b>	<b>チェック</b>
10) メンバーチェックを登録証とともに行う	<input type="checkbox"/>
11) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶	<input type="checkbox"/>
<b>◆ 試合中</b>	<b>チェック</b>
<b>得点の管理、時間の管理</b>	
12) 得点の管理はできているか(得点のたびに確認しているか)	<input type="checkbox"/>
13) 目視による公示時計の動作確認(どちらかが、試合開始時、タイムアウト時、再開時に)	<input type="checkbox"/>
<b>走法と位置取り</b>	
14) 基本的な立ち位置や動きを意識しているか	<input type="checkbox"/>
15) コートレフェリー時: 判定の後に素早くポイントに移動しているか	<input type="checkbox"/>
16) ゴールレフェリーへの移動時: バックステップで移動していないか	<input type="checkbox"/>
17) 7mTの際のコートレフェリー: スロアーの利き腕側に立っているか	<input type="checkbox"/>
<b>判定の手順、ジェスチャー</b>	
18) ① 笛 ② 方向指示 ③ジェスチャー の判定の手順を守っているか	<input type="checkbox"/>
19) 正しいジェスチャーを用いているか	<input type="checkbox"/>
<b>立ち居振る舞い</b>	
20) ペアで同じ種類の笛を使用しているか	<input type="checkbox"/>
21) 笛を口にくわえたまま、観察していないか	<input type="checkbox"/>
<b>役割分担</b>	
22) 明確であるか(7mT、ゴールエリアへの侵入など、ペアの領域を判定していないか)	<input type="checkbox"/>
<b>競技規則の正しい運用</b>	
23) 退場を判定する際、①タイムアウト ②ジェスチャー14 の手順となっているか	<input type="checkbox"/>
24) 差し違えた場合、必ず ①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか	<input type="checkbox"/>
<b>◆ 試合中終了後</b>	<b>チェック</b>
25) 両チーム役員やオフィシャルと挨拶	<input type="checkbox"/>
26) 公式用紙に正しく記入されているかどうか確認後、サイン	<input type="checkbox"/>
27) 大会審判長や他のレフェリーへ助言を求める	<input type="checkbox"/>
28) 審判手帳に担当試合を記載し、審判長に捺印をお願いする	<input type="checkbox"/>

【評価のポイント】 心技体を総合評価  
(平成 29 年度より B 級審査においても体力試験を実施する)

## 1. 人間性：礼儀や態度(競技規則筆記試験の結果も真面目かどうかを反映)

レフェリーにおけるグループ、仲間、チームとは？

## 2. 技術：レフェリーの仕事の目的は？

- ① 首尾一貫性：最初の 5 分間とは？
  - ・ 競技開始の直後でも、即座に 2 分間退場・レッドカードを出せる準備
  - ・ プレー（特に相手に対する動作）に対して、明確な基準を知らせる
- ② 笛の音色：プレーヤーや観衆にとって重要
  - ・ スピーディーなハンドボールを演出するために判定のジェスチャーより大切
  - ・ 強弱長短を使って表現
- ③ プレー評価：特にナイスディフェンスにより惹起されたオフENSEのミス
  - ・ Not a policeman! Don't look for fouls! ルールは何のために必要か？
  - ・ 正しいハンドボールを指導する監督の考えと大差ないはず
- ④ 段階的罰則：相手に対する動作とスポーツマンシップに反する行為
  - ・ 危険行為を排除。予防的な選手やチーム役員とのコミュニケーション。
  - ・ 真の教育的配慮とは？
  - ・ 競技の本質を根底から覆すような行為（シミュレーション、目隠し…）を排除
- ⑤ 立ち居振る舞いと任務分担：審査会の急造ペアでも常識的な範囲で対応を
  - ・ セット攻撃時の姿勢と観察位置
  - ・ 速攻（リスタート、ターンオーバー）時の走路・走法と観察位置→特に重要！
  - ・ 正しいジェスチャー（オリジナリティは不要）
  - ・ 任務分担の考え方（ボールの有無）
- ⑥ ミス：基準ではない（ミスはあくまでミス）
  - ・ Small Potatoes と Big Potatoes
  - ・ 大きなミスをしないためのゲームコンディション

## 3. 体力：日頃のトレーニングの成果を！仲間意識をもって励まし合いながら！

【上達のために】 審査結果の如何にかかわらず

審判員の倫理綱領（レフェリーハンドブック）に従えば自ずと道標は …

## 審判員の倫理綱領

レフェリングは、競技中の判定はもとより、  
ハンドボール競技の進歩・発展に寄与するものであり、  
レフェリーは責任の重大性を認識し、  
ハンドボール競技への情熱を基に、すべての人に奉仕するものである。

1. レフェリーは生涯学習の精神を持ち、常にハンドボール競技の正しい理解とレフェリング技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くす。
2. レフェリーは任務の尊厳と責任を自覚し、教養を深め、人格を磨くよう心掛ける。
3. レフェリーはプレーヤーや監督の人格を尊重し、あたたかい心で接するとともに、レフェリング内容について理解と信頼を得るように努める。
4. レフェリーは互いに尊敬し、ハンドボール競技関係者と協力してレフェリングに最善を尽くす。
5. レフェリーはレフェリングの公平性を重んじ、レフェリングを通じてハンドボール界の発展に尽くすとともに、競技規則・諸規程の遵守および秩序の形成に努める。
6. レフェリーはレフェリング活動にあたって、営利を目的としない。

(公財) 日本ハンドボール協会 審判部

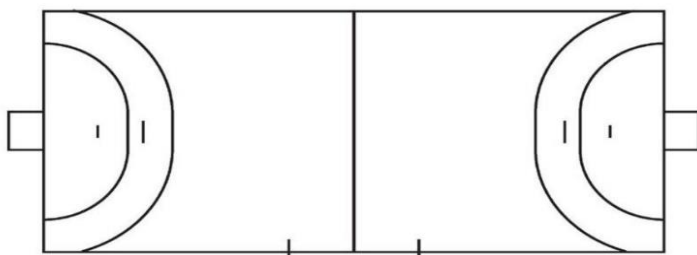
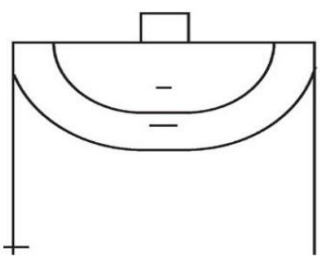
※ レフェリーハンドブック 2015 より

**研修資料 14-3 【レフェリー評価票】**

レフェリー評価票 [2019全日本大会用]						
氏名・ペア名	所属		期 日	年 月 日		
大会名	会場					
評価者	印	対戦	vs	男・女	結果	:
総合的な評価						
レフェリーの総合評価は	<input type="checkbox"/> とても良い <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 概ね良い <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> ほぼ適切 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分					
このゲームは(難易度)	<input type="checkbox"/> とても難しい <input type="checkbox"/> 難しい <input type="checkbox"/> やや難しい <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 簡単 <input type="checkbox"/> レフェリーがゲームを難しくしてしまった					
なぜ難しかったか	<input type="checkbox"/> 結果・得点経過 <input type="checkbox"/> ベンチの振る舞い <input type="checkbox"/> 観客の影響 <input type="checkbox"/> スピード <input type="checkbox"/> 戦術 <input type="checkbox"/> 違反行為 <input type="checkbox"/> その他(下欄に具体的に記入)					
項目ごとの評価	とても良い	良い	適切	不十分	コメント (優れている点・改善すべき点など)	
(1)ゲーム管理	レフェリーとしての要素・全体的印象					
	振る舞い・選手・役員とのコミュニケーション					
	チームとの関係・平等であるか					
(2)連携	チームワーク(オフィシャルを含めて)					
	ヘアで均一な判定					
	領域分担					
(3)ゲームの理解	レベルに応じた基準					
	アドバンテージ・不必要な笛・発展性のないプレーの見極め・笛のタイミング					
(4)1対1の局面	罰 則					
	チームに基準が理解されているか					
	ハリウッドアクションの見極め					
(5)攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反					
	ボールを持たないプレーヤーの違反					
	正しいブック / 不正なブロック					
(6)7mスロー	明らかな得点チャンスの見極め					
	ゴールエリアへの侵入と影響の見極め					
	ボールを所持していない明らかなチャンス					
(7)違反	ステップ・ダブルドリブルなど					
	足を使った違反					
	フリースロー・スローオフなど					
(8)時間の管理	パッシブプレー予告合図のタイミング					
	パッシブプレーの判定					
	タイムアウト					
(9)動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り					
	明確なジェスチャー・笛の音					
	体力・走力					
レフェリーへのアドバイス ・ 特記事項など						

(ウラ面)

時間	状況

(公財) 日本ハンドボール協会 競技・審判委員会

- 現在国内で使用している「レフェリー評価票」は、IHFで使用しているものと同様である。2016年2月、香港にて行われたAHFチーフレフェリー・TDセミナーにおいて、その記入の仕方について、下記の通り具体的に説明がなされた。国内の上級審判員審査会および、全日本大会審判員評価においても、この評価票を使用し、審判員へのフィードバックおよび指導に役立てていく。

## 1 「レフェリーの総合評価」

7段階で評価する。以下にその基準を示す。

**評価項目の(1)～(3)は、審判員としての基本姿勢に関わる大切な項目である。**全日本大会審判員(A級・B級)評価においては、(1)～(3)の項目において「適切」以上の評価がつくことが条件となる。また、**A級審査においては、(1)～(3)の項目において「良い」が2つ以上つくことが条件**となる。

### (1) とてもよい……トップレフェリー、指名レフェリーに求められる

- レフェリーの判定ミスがほとんどなく、ゲームに影響を与えていない。
- 基準がとても明確で理解しやすい。
- ペア間でのバランスがよい。
- **素晴らしいゲーム運営がなされており、明らかにレフェリーが受け入れられている。**

### (2) 良い……A級審判員の合格ライン(2017年改訂)

- レフェリーの判定ミスが少ししかなく、ゲームに影響を与えていない。
- 基準が理解しやすい。
- **すべての項目において、「不十分」の評価がつかないこと**
- **(1)～(3)の項目において、「良い」の評価が2つ以上つくこと**
- **(4)～(9)の項目において、「良い」の評価が3つ以上つくこと**
- **適切なゲーム運営がなされており、レフェリーは概ね受け入れられている。**

### (3) 概ね良い……レフェリーコースの合格ライン(2017年改訂)

- レフェリーの判定ミスが少しあるが、ゲームに影響を与えていない。
- 基準にややぶれがあるが概ね理解しやすい。
- レフェリングの「評価項目」(4)～(9)の中で、**不十分な項目が1つ**しかない。(例：(4) 1対1の局面、罰則 等)
- **「項目ごとの評価」(1)～(3)において「適切」以上の評価がつく。**

### (4) 適切……全日本大会審判員・B級審判員の合格ライン

- レフェリーの判定ミスは少しあるが、ゲームに影響を与えていない。
- 基準にぶれがあるものの、
- レフェリングの「評価項目」(4)～(9)の中で、**不十分な項目が2つ**ある。(例：(4) 1対1の局面、罰則、(7) 違反、ステップ 等)
- **「項目ごとの評価」(1)～(3)において「適切」以上の評価がつく。**

## (5) ほぼ適切

- レフェリーの判定ミスは多いが、試合結果には大きな影響を与えていない。  
(例： 点差の開いた試合 等)
- 基準のぶれが大きく、一貫していない。
- レフェリングの「評価項目」(4)～(9)の中で、不十分な項目がいくつかある。(例： 罰則、ステップ、攻撃側の違反 等)
- 「項目ごとの評価」(1)～(3)において「適切」以上の評価がつく。

## (6) やや不十分

- レフェリーの判定ミスは多いが、試合結果には大きな影響を与えていない。  
(例： 点差の開いた試合 等)
- 基準のぶれが大きく、一貫していない。
- レフェリングの「評価項目」(4)～(9)の中で、不十分な項目がいくつかある。(例： 罰則、ステップ、攻撃側の違反 等)
- 「項目ごとの評価」(1)～(3)において「不十分」の評価がつく。

## (7) 不十分……初心者、未経験のレフェリー

- レフェリーの判定ミスが多い。
- 多くの判定ミスが明らかに試合結果に影響を与えている。
- 基準のぶれがとても大きい。
- レフェリーの勝手な判断が、ゲームに影響を与えている。
- レフェリーはゲームを理解していない。
- 明らかにレフェリーがゲームをコントロールできていない。

## 2 「項目ごとの評価」4段階

### (1) とても良い

- 申し分がなく、判定ミスがほとんどない。

### (2) 良い

- 概ね満足できる、基準のぶれが少なく、チームにも受けいれられている。

### (3) 適切

- 判定ミスがあり、改善は必要であるが、基準のぶれは少なく、チームにも受け入れられている。

### (4) 不十分

- 判定ミスも多く、基準が受け入れられない。改善を要する。



### 3 「コメント」

- ◆ 別紙「**レフェリー評価に関する着眼点**」を参考に、レフェリーに対して今後改善を要する点について具体的に記載する。
- ◆ **上級審査会においては、審査に合格・不合格した理由について具体的な記載**があるとよい。レフェリーにとって今後何を努力していくべきなのか明確にし、指導・および評価の一体化を図る。
- ◆ 評価票裏面については、審査の際メモとして使用する程度で活用し、必要に応じて指導に役立てる。

例)

項目ごとの評価		とても良い	良い	適切	不十分	コメント (優れている点・改善すべき点など)
(6) 7mスロー	明らかな得点チャンスの見極め					十分に身体をコントロールして打ったものに与えている
	ゴールエリアへの侵入と影響の見極め			○		
	ボールを所持していない明らかなチャンス					

### 4 「ゲームの難易度」

- 試合全体を客観的に観察して、難易度がどうであったかをチェックする。
- 「とても難しい」「難しい」「やや難しい」についてはその理由としてあてはまる項目をチェックする（複数可）。
- 「レフェリーがゲームの流れを作った」は意図的な介入があったと疑われる場合にチェックする。

項 目	着 眼 点	
(1) ゲーム管理	レフェリーとしての要素・全体的印象	試合に関する的確な態度であるか。タイミングが遅れた介入でゲームを見失ってはいないか。
	振る舞い・選手・役員とのコミュニケーション	不自然な、不安定な態度ではないか。集中力を欠いているような仕草が見えないか。チーム役員・プレーヤー・オフィシャルに対し、基準を明確に伝えるようボディランゲージや口頭による説明ができていないか。ベンチ管理(交代プレーヤー・チーム役員)。
	チームとの関係・平等であるか	試合に関する感情。公平な態度であるか。一方のチーム役員やプレーヤーと接触していないか。弁解や妥協しがちではないか。ヤジとか批判に簡単に影響されていないか。
(2) 連携	チームワーク(オフィシャルを含めて)	誰が見ても分かるように、パートナー・オフィシャルとの協力ができているか。
	ペアで均一な判定	1人のレフェリーが支配したり、されたりしていないか。
	領域分担	パートナーの責任範囲を侵していないか。侵していることに気づいているか。
(3) ゲームの理解	レベル・カテゴリーに応じた基準	プレーヤーの発達段階を考慮し、ゲームの流れを理解しているか。ゲームの流れに反した判定をしていないか。
	アドバンテージ・不必要な笛 発展性のないプレーの見極め 笛のタイミング	明らかな得点チャンスでのアドバンテージを見ているか。アドバンテージ後の罰則を与えているか。ルール違反のアドバンテージを与えていないか。不要な笛でプレーを止めていないか。発展性のないプレーの見極めと、笛のタイミングは適切か。
(4) 1対1の局面	罰 則 8:4にある即座に2分間退場への準備	許容範囲のタフなプレーとアンフェアなプレーの区別ができていないか。ルール8(違反・スポーツマンシップに反する行為)に一致しない罰則を与えていないか。
	チームに基準が理解されているか	罰則が良いバランスで判定されているか。
	ハリウッドアクションの見極め	ハリウッドアクションを見抜き、予防的な処置を含めた、適切な処置ができていないか。
(5) 攻撃側の違反	ボールを持ったプレーヤーの違反	違反を見逃していないか、探していないか。正しい防御活動を認めているか。また、明確なボディランゲージでプレーヤーへ基準を知らせているか。
	ボールを持たないプレーヤーの違反	
	正しいブロック/不正なブロック	
(6) 7m スロー	明らかな得点チャンスの見極め	適切に7mスローを与えているか。明らかな得点チャンスではないのにもかかわらず7mスローを与えていないか。
	ゴールエリアへの侵入と影響の見極め	
	ボールを所持していない明らかなチャンス	
(7) 違 反	ステップ・ダブルドリブル・オーバータイム・明らかな着地シュート	正しく判定しているか。明らかな得点チャンスを妨害され着地してシュートした場合は、7mスローに戻しているか。
	足を使った違反	
	フリースロー・スローオフなど	各種スローが正しく実施されているか。3mの距離を観察できているか。修正後の処置は適切か。
(8) 時間の管理	パッシブプレー予告合図のタイミング	予告合図のタイミングは適切か。
	パッシブプレーの判定	違反の判定のタイミングは適切か。
	的確なタイムアウト・不要な中断をしない	ルールに則って両チームに平等に与えているか。与え過ぎていないか。遅過ぎないか。
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・笛をどこで吹くか	2人の死角はないか(プレーヤー・ボールから目を離していないか)。サイドチェンジは適切か。
	明確なジェスチャー・笛の音	ルールブックにないジェスチャー、はっきりしないジェスチャーを用いていないか。最初に方向指示をしているか。笛の音は適切か(弱すぎる・大きすぎる・挑発的など)。
	体力・走力	レフェリングをするにあたり十分な体力・走力を有しているか。

**研修資料 15 【グループ討議】**

それぞれのテーマに沿って、みんなで話し合ってみましょう

テーマ : .....

MEMO

A large rounded rectangular box with a 'MEMO' tab at the top left. The box contains horizontal dotted lines for writing.

## 【2019 年度 審判員の目標】

(公財) 日本ハンドボール協会 審判委員会  
指導委員会

### 1 『審判員の心得 10箇条』

- |             |            |
|-------------|------------|
| ① リーダーシップ   | ⑥ 身体上の適正   |
| ② 誠実さ       | ⑦ ユーモアのセンス |
| ③ ルールに関する知識 | ⑧ 勇気       |
| ④ 冷静さ       | ⑨ 協調性      |
| ⑤ 正しい判断     | ⑩ 仲間意識     |

### 2 『コンタクトプレーを正しく見極める』

#### ハードプレーとラフプレーの見極め（競技規則 8:1 ~ 8:3）

競技規則第 8 条「相手に対する動作」は攻撃側、防御側の双方に適用する。レフェリーは、身体接触の際、両者の位置関係（先に位置をとっていたのはどちらのプレーヤーなのか）と、違反があった場合は、その違反を受けたプレーヤーへの影響を正しく見極めなければならない。

- ① 防御側プレーヤーが、不利な位置（横や後ろからボールを対象とせず）から攻撃側のプレーヤーに接触を試みたならば、競技規則 8 の 2、8 の 3 の判断基準をもとにラフプレーとして判断する。
- ② 競技規則 8 の 3（d）の「違反行為の影響」を見極める。違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失っていないかどうか、すぐに帰陣できないほどの影響があるかを見極める。もしも、違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失うことなくプレーをしたならば、スピーディーなゲーム展開となるよう、アドバンテージを適用して安易に競技を中断してはならない。また、違反を受けたプレーヤーへの影響を見極めて、罰則を適用するかどうかの判断をする。

#### < 研究課題 >

- ◆ モダンハンドボールの適用については、各連盟、カテゴリーの実態に応じて検討する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用する。
- ◆ **コーチ、プレーヤーとのコミュニケーションの取り方**。ボディーランゲージ（Body Language）や**口頭説明**を用いて、プレーヤーとコンタクトを取り、基準を示す。
- ◆ ゴールレフェリーが、ゴールエリアライン付近の攻防をきちんと管理する。



## 2016年リオデジャネイロオリンピックゲームの総括

2016年9月16日 Ramon Gallego  
( IHF PRC )

2016年12月10日現在  
競技規則研究専門委員会

はじめに

以下の内容は、リオオリンピックでテクニカルミーティング等で話題にした点である。  
この内容は次からのIHF大会の基本となる。自国、大陸で活用し、この話題を各国のチームやレフェリーに共有することを望んでいる。

### 1. 6枚のイエローカードを示す必要はもはやない

- (a) イエローカードの使用は、レフェリーが許容範囲を確立するための「道具」であり、「管理的に」チームに対して最大数3枚を使い切ることとは良いとは言えない。
- (b) 明らかに即座に2分間退場を判定すべき場面でイエローカードを示しているレフェリーがいる。

### 2. 後半にイエローカードは使用しない

前項と関連し、後半にイエローカードを使うことは、その「道具」の使い道としては適切でない為、避けるべきである。

### 3. GKなしでの攻撃(6人 or 7人)の際のコートレフェリーの位置

コートレフェリーから反対のコート(のゴールレフェリー)に戻る際、最も良い走路はベンチと反対側である。このような位置を取れば、素早い選手交代を妨害することは避けられる。レフェリーは、もしも逆の位置を取っている場合には、位置を交代できる機会を流れの中から見つけなければならない。

### 4. GKなしの攻撃を始めたときは、TDがレフェリーに注意を促す

IHFのTKやIHFオフィシャルが、ヘッドセットを使用し攻撃チームがGKを下げていることに注意を促すことで、レフェリーがその状況に気付き適切な判定(空のゴールすなわち明らかな得点のチャンスである)をすることを助けることが出来る。「ゴールキーパーがいない」「ゴールキーパーはコート外」等、短い文章で伝達する。

## 5. プレーヤーがボールを得、自陣の 6m ライン付近からGK不在のゴールにシュートを試みた際の 7m スローの判定

競技規則解釈 6(c)に規定されているように、GK 不在の状況は、相手チームのプレーヤーがそのゴールに直接シュートする機会を得ることができるので、明らかな得点チャンスとして見なされる。以下の2つの状況が一致した時には、ゴールから距離に関係なく 7m スローとなる。

- ① ボールを持ったプレーヤーがゴールに向かってシュートを試みている。
- ② 相手プレーヤーが違反によってこのチャンスを妨害する。

反対に、もしプレーヤーがドリブルをしたり、他のプレーヤーにパスをするなど、GK 不在のゴールへのシュートを試みていない場合はGK不在の状況で相手の違反があったとしても 7m スローは判定しない。

## 6. 罰則を与えるよりも、ジェスチャーやボディーランゲージを用いながら許容範囲を示すこと ～求められるレフェリーの人間性～

許容範囲をチームへうまく伝えていくことが、ただ罰則を与えて示すことよりもはるかに効果的である。もちろん、選手が許容範囲を超える行為を行えば罰則を与えるべきである。また、罰則が必要である理由を説明するためにジェスチャーを用いるべきである。許容範囲を的確に伝えるために、レフェリーには確固とした人間性が必要となる。

## 7. 試合開始直後から、IHF 審判委員会発行の判断基準をもとにピボットゾーンのコントロールをする

これは過去の大会においても課題となる点であり、レフェリーがゲームコントロールを的確に行っていく上での重要な要素の一つである。ピボットプレーヤーを長時間つかみ続けたり、シャツをつかんだり、引き倒すなどの行為は、許されない典型的な行為である。レフェリーが早く対処すればするほど、このようなディフェンスプレーヤーの違反行為をなくし、うまくゲームがコントロールできる。

## 8. IHFのTK(SKとオフィシャルと連携して)は試合前のウォーミングアップ中に選手の装具を確認しなければならない

ルールで許されていない装具を身につけているプレーヤーへの対応により、競技の進行を遅らせることがないようにしなければならない。足首や膝、肘のサポーター（固い素材、プラスチック、金属製であれば禁止）、ヘアピン、身体に身に付けるあらゆる金属製のもの、禁止された場所への松やに、シャツやサイクリングパンツの袖の長さや色などが含まれる。

レフェリーも協力するべきであり、もし発見した場合は IHF オフィシャルに通知し、適切に対処しなければならない。

## 9. チームタイムアウトの時間に厳しく

レフェリーと TD は1分間のチームタイムアウトが終了した後、すみやかに競技を再開する責任がある。50秒の合図が知らされたとき、レフェリーとTDは各チームのミーティングを終了させ、競技を再開するための位置につかせなければならない。

## 10. 原則として、ベンチの管理は TD の職務である。しかし、直接的な抗議や事象においてはレフェリーがチーム役員や交代地域にいるプレーヤーに対し直接罰則を与えることも可能である

IHF のタイムキーパー、スコアラー、オフィシャルにより、チーム役員または交代地域にいる選手によるスポーツマンシップに反する行為に対し、罰則を与えるよう依頼された場合、レフェリーはその指示に従わなければならない。

## 11. リザーブのレフェリーペアはその試合における通信機器の管理をする

リザーブレフェリーの職務に、各試合における全ての通信機器の準備および回収することを含む（5つの通信機器、2人のレフェリー、1人のオフィシャル、1人のタイムキーパー、1人のスコアラー）。

## 12. <新傾向> 7m スローを行う選手が、ボールを床にバウンドさせたり、ゆっくりとした動きをしたり、またはコート中央に位置を取るなどして、スローを行うことを遅らせる傾向がある

上記のような新しい傾向の行為は行わせてはならない。また、レフェリーは競技を遅延させないように、スローを行おうとしている選手の行動に注意し、速やかに行わせなければならない。また、繰り返し行われる遅延行為に対しては、その選手に対して段階的罰則を適用する。

## 13. コートを拭くためのタイムアウトは可能な限り減らし、できるだけ素早く行わせる

不当な理由のための時間の浪費を避ける。レフェリーはプレーヤーから床を拭いて欲しいというリクエストを全て受け入れる必要はない。いくつかのケースとして床が濡れた場所が、その後の競技の進行に直接影響を与えるものではない場合、中断をせず、その後攻撃が変わった後に拭くことができる。また、プレーヤーが、中断中に自分に有利になるよう、位置を変えたり呼吸を整える目的でレフェリーにタイムアウト要求することがある。

## 14. 負傷したプレーヤーへの対応

### ～ジェスチャー16を示す前に救助を必要とするかプレーヤーに直接尋ねる～

一方のレフェリーが、タイムアウトの後ジェスチャー16（交代地域より2名の入場許可）を行うと、負傷したプレーヤーは3回の攻撃終了を待たなければならない。したがって、プレーヤーのために、すぐに立ち上がり競技を続けることができるかどうか、あるいはコートの外で治療が必要かどうかを最初に尋ねる。

負傷が明らかであるならば、この行動は必要ない。

レフェリーは、タイムアウトの後に、ジェスチャー16の指示が遅れないように、あるいは、あわててゲームを再開させてはならない。このルールの基本精神は、競技の円滑な進行のためであり、プレーヤーがレフェリーからの救護の指示があるまで、コート上で長い時間倒れたままであることを許すという意味ではない。

## 15. 怪我をしたプレーヤーや、ケガではないプレーヤーがコート上に倒れていても、速攻やクイックスローオフを中断させてはならない

攻撃側や防御側を問わず、プレーヤーがコート上に倒れた状態で、クイックスローオフや速攻がレフェリーのタイムアウトの判定により中断されてはならない。得点チャンスが消滅するまでレフェリーはその攻撃を認める。速攻が終了した段階で、まだプレーヤーがコート上に倒れた状態であれば、タイムアウトをとり救護を要求することができる。しかし、明らかな得点チャンスの時や明らかなチャンスにつながる可能性がある場面では、タイムアウトを判定してはならない。

## 16. パッシブプレー ～レフェリーは通信機器を用い、パスをカウントする～

両レフェリー間でパスのカウントのミスを避けるために、一方のレフェリーが、(コートレフェリーが望ましい) 通信機器により、もう一方のレフェリーに聞こえるようにパスの回数をカウントする。

ペア間でこのカウントの方法が一番重要であるが、レフェリー間で方法を確立すること。指を用いて挙げて、パスの数を示す必要はない。

## 17. コート上に引かれた新しいライン

下の写真のようにキーパーの前にある小さな印は、競技規則内で指定されていない余計なラインである。このラインはゴールの中心を捉えており、明らかにキーパーのポジショニングに有利となるものである。そのためレフェリーは、その存在に注意を払わなければならない。



## 18. キャッチネット

ゴールのキャッチネットは、束ねておくことはできない (ネットはゴールイン後のボールのリバウンドを防ぐものであり、IHF が主催する大会には必須のものである)。

これは、競技規則内に記載がないものの、ゴールキーパーに対する注意事項である。

## 19. 黒色の笛

IHF 大会ではレフェリーは、黒色の笛を使用すべきである (カーニバルではない)。

## 20. チーム役員に対する失格の判定

チーム役員に対する失格において、全てではなくとも、同じ認識を持っていると考えられる。しかし、新ルールに関するワーキンググループ (IHF New Rules Working Group) は、正式な見解を通達として出すため、リオとドーハにおいて会議を行った。

まずここで重要なことは、2016年より施行となった競技規則は、チーム役員に関する条項に関して変更はしていないということである。2016年の競技規則は、2010年に施行されたルールを基本としており、「ブルーカード」という新しい表現方法を追加しただけである。

競技規則 16 の 6c における失格は、プレイヤーの 3 回目の退場に伴う失格 (16 の 6d) と同様の失格である。これは通常の失格であるが、8 の 6 や 8 の 10 のような振る舞いをした場合、報告書を伴う失格 (レッドカードをあげた後にブルーカードをあげる) とすべきである。

また、チーム役員に対する失格において、8 の 9 と 8 の 10 の違いは重要となる。これは、通常の失格なのか、あるいは報告書を伴う失格なのかをレフェリーが判定するための判断要素となる。



## 通信機器の活用について

(公財) 日本ハンドボール協会  
審判委員会委員長 福島亮一

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 通信機器の活用

**① 得点の確認** 落ち着いて

- ▶ (スローオフの後)「〇対〇」  
…コートレフェリーから、ペアおよびTDに

**② 罰則の確認**

- ▶ 10分、20分などの節目に合わせて

警告  
熊本 7, 12  
愛知 3, 9 ね

熊本 3 番  
退場 2 回目ね

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 通信機器の活用

研修課題

**③ ボールがないところの違反行為**

- ▶ (ゴールレフェリー)  
「ポスト、つかみ合ってるから上からお願い」
- ▶ (コートレフェリー)  
口頭やジェスチャーでのコンタクトを取る

**④ パッシブプレーの予告**

- ▶ 「挙げるよ！はい！」
- ▶ (プレーの中断時)「次、4 回目ね」

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 通信機器の活用

**⑤ 罰則の適用**

- ▶ (ペアの領域にいるプレーヤーに対して)  
「6 番、イエロー (退場) ね」

**⑥ アドバンテージ、中断のタイミング**

- ▶ 「この後、8 番イエロー出すよ」
- ▶ 「相手ボールになったら (負傷者対応で) 止めるよ」

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 通信機器の活用

**⑦ 基準合わせ**

- ▶ 「今のどう見えた？」  
「罰則でOK？」  
「パッシブのタイミングどう？早い？」

**⑧ オフ・ザ・ボールでのプレーヤーの動き**

- ▶ 「サイドから、入ってくるよ」
- ▶ 「ポスト、ブロック狙っているよ」

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 通信機器の活用

**⑨ コートレフェリー (自分) の領域からペアの領域になった場合**

- ▶ 「任せた！」  
…決して自分は吹かない
- ▶ 「ここは自分が判断するね」

連攻時

相手の目の前

ゴールエリア際

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 通信機器の活用（TDとの連携）

### ⑩ 罰則を適用する際

- ▶ 対象となるプレイヤーの番号の伝達

2番、警告です

退場は、5番です

### ⑪ 負傷したプレイヤーへの対応

- ▶ 治療行為や担架の要請
- ▶ 3回分の攻撃に参加できないことの伝達

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 通信機器の活用

### ⑫ ポジションを変えるタイミング

- ▶ 「場所変わろう」
- ▶ 「攻撃が変わったら、逆側に行くね」



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 通信機器の活用（TDとの連携）

### ⑬ 終了間際（時間の管理）

- ▶ 残り時間とカウントダウン

残り  
5分、3分、1分  
30秒 ...

10、9、8、・・・  
3、2、1、終了

### ⑭ チームタイムアウト

- ▶ 「タイムアウト出るよ」

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## 通信機器の活用（TDとの連携）

### ⑮ 交代地域の管理

- ▶ ゴールキーパーなしでの攻撃  
... 「ゴールキーパーなしね」  
「ゴールキーパー戻ったよ」
- ▶ 「退場者戻るよ」
- ▶ コーチングゾーンを越えての指示  
... TD、ベンチ側のレフェリーから注意
- ▶ 「交代地域からカットを狙っているよ」

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## まとめ

### 共同作業

（レフェリー間、レフェリーとTD間）

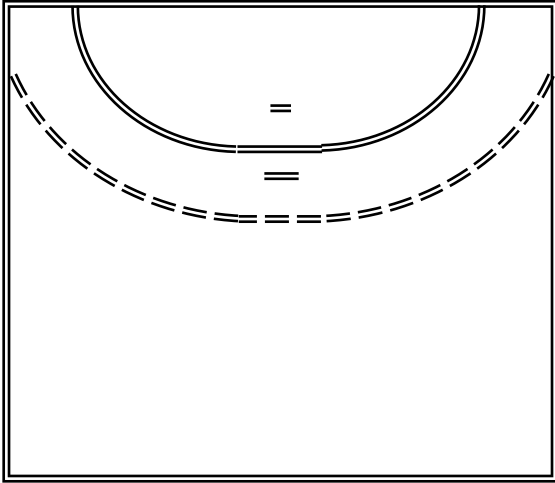
通信機器を使用していたとしても、  
誰が見ても明確にコンタクトを取っている  
姿を！

→ 安心感につながる

**ただし、表情は注意！！**

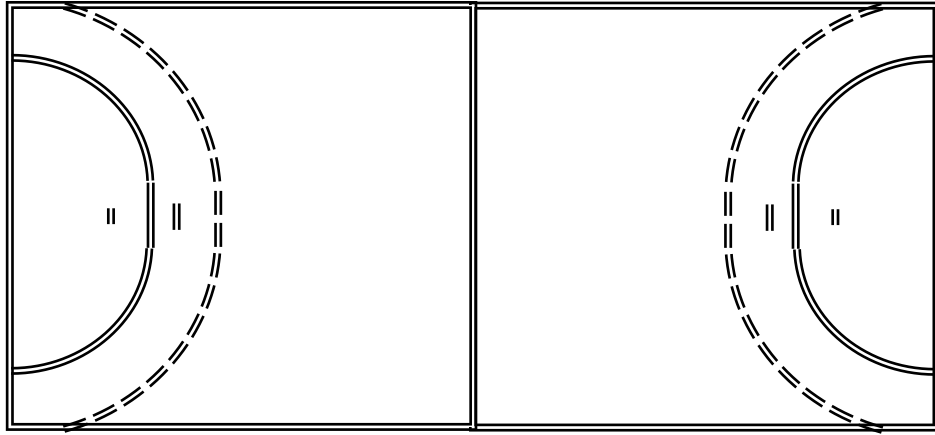
Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

# MEMO



Handwriting practice lines consisting of seven horizontal dotted lines.

Handwriting practice lines consisting of twenty horizontal dotted lines.



A series of horizontal dotted lines for writing, consisting of 20 lines.